

# 山友



第27号  
2015.12.2



岩手県勤労者山岳連盟

盛岡山友会



◆ この一年を振り返って	会長 渡邊 健治	1
◆ 山友 写真ギャラリー		2
◆ 専門部報告		4
○山行管理委員会	○教育遭対部	○山行企画部
○組織部	○自然保護部	○広報部
○事務局		
◆ 県連活動報告		10
◆ 志向別グループ報告		11
○四季の山	○グループゆうゆう	○岩手の名山あるこうかい
○県境の風	○ウィークディクラブ	○心のスケッチ山行クラブ
○グループ銀世界	○ラウンド・アドベンチャー	○ラウンド・トレッカー
◆ 過去1年の山行実績一覧表 (会山行)		20
◆ 2015 みんなの山歩き		25
来年やってみたい山行	山で食べると美味しいもの	アンケート
◆ 随想 他		
短歌	三澤 信裕	32
俳句	北田 絹恵	32
折りおりに	中村 美栄子	33
花と山と 20年目の想い	川村 雅子	34
今年のベスト5山行	古川 孝	36
南アルプス山小屋の旅	山田 潔	39
十二月の岩手山	松田 希	42
礼文岳	千田 勝則	46
山での出会い	中松 明久	47
アメリカ・グランドキャニオンを走る	橋本 久	49
マッターホルンへの道のり	河合 秀樹	52
◆ 新入会員です		59
小原耕・大倉博・中松明久・圓子徹哉・舟越茂雄・三澤信裕・柚澤瑠実子・中村篤		
金子紘野・菅原富士夫・本間総悟・三戸紀子		

# この一年を振り返って

盛岡山友会会長 渡邊 健治

御嶽山の噴火災害から一年が過ぎた。東日本大震災もそうだが、衝撃的な出来事だったにも関わらず、時の経過とともにあっという間に記憶から消え去られていくことが悲しい。小学生のとき、休火山や死火山という言い方を学んだ。そのとき岩手山は休火山だった。今は、過去1万年以内に噴火した火山は活火山で、休火山や死火山という分類はないらしい。岩手山をはじめ、八幡平、秋田駒ヶ岳、焼石岳、須川岳など、盛岡から身近な山々は全て活火山だ。足元の地中にマグマが今もうごめいているのだ。

うごめいているのはマグマだけではない。憲法違反の戦争関連法案が9月に強行採決されて以降、憲法の上に自らを置く安倍首相の独裁的な政権運営に対して、民主主義を取り戻そうという多くの国民の怒りの声が、思想や立場を越えて野火のごとく広まりつつある。辺野古問題やTPP問題も然り、米国への盲目的従属と大企業の言いなりでよいのか。格差拡大を放置して弱者を貧困に追い詰め、生存権も幸福追求権も奪おうとする国家を誰が望んでいるのだろうか。

国連のユネスコ憲章の前文冒頭には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とある。また、「政治的及び経済的な取り決めのみに基づく平和は永続せず、真の平和は、知的及び精神的連帯の上で築かれなければならない」と。これは、日本国憲法の平和主義そのものだ。スポーツであり文化でもある登山を愛好する者の一人として、平和憲法の下で格差のない平和で心豊かな社会づくりに貢献したいと切実に思う。

盛岡山友会の1年を振り返ってみると、残念なことに過去最多となる6件の事故があった。死に至るような重大事故ではなかったが、一步間違えばそうなったと思われるケースも含まれている。全国の中でも事故が少ない山岳会という、これまでの評価を返上しなければならない。これは、山行管理の大きな課題であるが、自らの命は自ら守るという根本的なところが欠けているようにも思う。事故防止対策を考える緊急プロジェクトの提案を受けて、全会員が危機意識を共有し、これまでにない実効ある取組にしていきたい。

来年9月には、創立30周年を迎える。記念事業の取組も役割分担を決めるなど、徐々に始まっている。創立当時のメンバーが少なくなっている中で、多くの会員にとって30年は節目の年ということ以外に意味はないのかもしれない。それでもメンバーが入れ替わりながらも、活動が衰えることなく進化し続ける盛岡山友会を培ってきたのは、30年近い長い年月を通して、会員一人ひとりを大切にす民主的運営に徹してきたことにあると思う。

民主主義は、時間もかかり根気も必要だ。違う考えや個性を受け入れ尊重するというのは「言うは易し、行は難し」だが、これだけは譲れない当会の宝だ。来年の30周年以降も、世代を引き継ぎながら磨き続けて行ってくれることを願っている。

# 山友 写真ギャラリー



「荒川南斜面のお花畑と赤石岳」 山田 潔



「しっとりと・・・」 石川 享子



「マッターホルンヘルンリ稜へ向かう」 河合 秀樹

# 専門部報告

## ● 山行管理委員会

報告者 渡辺 健治

### ■ この一年の主な取組み

#### ① 山行管理の見直し

諸々の課題に対応するため、個人山行の特別ルールによる簡易版計画書を廃止、口頭による計画届出期限を前日までから二日前までに繰上げ、下山連絡のリミットを21時から19時に繰上げ、緊急連絡先の持回制を継続するなど大幅な見直しを行いました。

また、過去最高を更新中の事故多発を受けて、事故防止の抜本的対策を考える緊急プロジェクトを運営委員会の下に立ち上げました。(11月8日第1回開催予定)

#### ② 山行活動の状況

昨年11月から1年間の山行活動は、実施件数528件で昨年(549件)を若干下回りました。ただし、個人山行は406件で昨年(402件)を若干上回っています。山行管理では、調査不足などによる杜撰な計画も見受けられ、個別に指導しなければならないケースが増えています。

#### ③ 事故・ヒヤリハットの状況

昨年11月以降の事故は6件、ヒヤリハットは11件、併せて16件となっており、前年の15件(事故3件、ヒヤリハット12件)と比較して事故が倍増しています。事故の内訳は、凍傷1件、骨折3件、刺し傷1件、下山遅れ1件で、幸い死亡事故はありませんでしたが、紙一重で重大事故となるケースもありました。

#### ④ 健康管理チェック票の取組み

「健康管理チェック票」の取組について、10月例会のミニ講座で「登山者の健康管理」をテーマに講習を実施し、できるだけその場でチェック票を提出してもらい、出席者の約8割から提出がありました。

### ■ 活動状況一覧〔過去1年〕

月日	事項	内容
〈2014年〉		
11月	緊急連絡先持回制	緊急連絡先の持回りを試行的に開始
11/26	あかぎら11月号	冬山に向けた留意点／山行リーダー会議の報告
〃	11月ミニ講座	「日常の山行に潜むリスクと対応を考える」(渡邊)
〈2015年〉		
2/25	あかぎら2月号	山行管理の状況(一年間の総括)
4月	緊急連絡先持回制	4月以降も継続実施
4/22	あかぎら4月号	山行管理ルールの見直し(簡易版計画書廃止)
〃	4月ミニ講座	「山行管理ルールについて」(渡邊)
5/27	あかぎら5月号	山行管理ルール〔確定版〕
6/24	あかぎら6月号	新特別基金の重要ポイント／山行アドバイザー制検討状況
8/26	あかぎら8月号	事故報告2件(県境下山遅れ、岩手山足首骨折)
9/30	あかぎら9月号	事故報告1件(北岳転落)／計画書作成の留意点
10/28	あかぎら10月号	健康管理チェック票／山行リーダー会議の案内
〃	10月ミニ講座	健康管理について(長谷川)

## ● 教育遭対部

報告者 長谷川 江利子

安全登山につながる知識や技術、万が一遭難した場合、生還するために必要な知識や技術について学べる講座を目指し 10 講座を開講しました。

(1 講座は天候により中止としました)

### 2014 年

- |                 |                                |
|-----------------|--------------------------------|
| 10/1 (水)        | 冬山入門講座 (座学) 勤労者福祉会館 (24 名)     |
| 10/12 (日)       | 冬山入門講座 負荷訓練 岩手山 (12 名)         |
| 11/ 9 (日)       | 救命講習 滝沢市公民館 (35 名)             |
| 11/16 (日)       | 冬山入門講座 ピッケル・アイゼン訓練 岩手山 (26 名)  |
| 12/6 (土) ~7 (日) | 冬山入門講座 修了山行 鶏頭山 (27 名+日帰り 6 名) |

### 2015 年

- |                  |  |
|------------------|--|
| 3/14 (土) ~15 (日) | 雪洞作り・滑落停止訓練 はやちねうすゆき山荘付近の斜面<br>(14 名)  |
| 5/10 (日)         | 登山の基本講座① 八幡平<br>ピッケル・アイゼン・滑落停止訓練 (19 名)                                      |
| 5/17 (日)         | クライミング技術講習会 川目 (22 名) (+会員外 1 名)   |
| 7/26 (日)         | 沢登り入門講座 小和瀬川 (中ノ又沢) 悪天のため中止  |
| 9/13 (日)         | 登山の基本講座②テーピング・搬送方法・ビバーク (33 名)   |
| 9/26 (土) ~27 (日) | クライミングレスキュー技術講習会<br>(今井講師による 3 年計画の 2 年目)<br>いこいの村岩手・北上展勝地 (9 名) (+会員外 11 名) |

## ● 山行企画部

報告者 千田 勝則

今年度の山行企画部の活動は、各部と志向別グループから出された山行計画を一覧表に作成し、山行計画がない土・日は、山行企画部で山行を企画しました。

各自、部員も山行計画を企画しました。

山行企画部で企画した山行は以下の通りです。

日程	山行	参加者数	内容
2014.11.30	七座山	10人	秋田の里山に登る
2015.1.4	兜明神岳	16人	新年山行
2015.2.8	黒森山	5人	冬の里山を歩く
2015.4.12	笹倉山	5人	宮城の里山に登る
2015.5.3	蛤山	3人	宮城の里山に登る
2015.6.5～7	礼文岳	3人	花の百名山に登る
2015.6.14	東根山～赤林山	4人	紫波三山縦走
2015.7.12	八幡平	10人	茶臼岳～八幡平花を楽しむ
2015.9.6	岩手山・姫神山	33人	創立記念山行
2015.9.19～21	飯豊連峰	4人	紅葉のロングコースに挑む
2015.10.4	森吉山	3人	紅葉を楽しむ
2015.10.11	泉ヶ岳	6人	組織部とのバス山行

以上のうちバス山行は参加者が少なく、レンタカーを借りて登ってきました。

山岳会の存在価値は、魅力的な山行企画があることです。

「あかげら」に載らない山行も多いようですが、個人山行も含めて「あかげら」に掲載してみんなで魅力ある山行にしませんか。



## ● 組織部

報告者 福山 茂和

今年度の組織部の活動は以下のとおりです。

### 1、初級登山教室

今年度は、昨年まで共催していた盛岡市西部公民館が御嶽山での自然災害による事故の影響で登山教室から手を引いたため、当会単独での登山教室となりました。共催でない影響と、動きだしの遅さもあって盛岡市の広報への掲載がかなわず、参加者の集まりが例年に比べ悪く、結果的に参加者6名の登山教室となりました。

また、今年は実地山行自体も御嶽山の影響を受け、受講者が不安に思わない山として登山教室として初めての三ツ石山に松川温泉から登りました。登る前には受講者の内、何名かは山頂は無理ではとの不安もありましたが、スタッフ皆さんの協力により6名全員が山頂へ到達することが出来ました。

なお、今年は受講生の内、一名の方が入会されました。

### 2、オリエンテーション

9名の方の申し込みがあったのですが、お仕事や学業で2名の方が欠席となり、7名の方で実施しました。暑さの厳しい(エアコンがない)中での開催となりましたが、参加者の方から色々なお話を聞くことが出来ました。

私達登山者が自然を守るためにできること。山を愛すること。  
上記を胸に今年度も多岐にわたる活動を行ないました。

-活動内容-

実施日	自然保護に関する調査
H26. 11. 22	秋の自然観察、夏虫山、大窪山周辺のホシシの農林業被害対策、草木の喰痕等の現状を確認しました。

実施日	岩手県勤労者山岳連盟 自然保護集会参加
H27. 5. 16	①早池峰山の鹿問題:登山者ができる事。
	②五葉山の34haに及ぶカソー建設で景観が損なわれてしまった。
	③リア中央新幹線での残土問題(360万m <sup>3</sup> )東京ドーム3.5杯分の処理と水脈問題
	④労山の新特別基金実務の講習会に参加

実施日	春、秋の自然観察
H27. 5. 31	春の自然観察:早池峰山での鹿の喰痕の確認実施 参加人員7人
H27. 10. 10	秋の自然観察:早池峰山の麓で鹿の喰痕を確認し、鹿の肉を試食しながら(予)
	タイグラー溪雲荘の井上さんの早池峰の現状の話聞く。

実施日	清掃登山
H27. 7. 5	岩手山:①参加人員39名 ②ゴミの量55.5kg
	姫神山:①参加人員10名 ②ゴミの量1kg

実施日	空中放射線量の調査
H27. 6. 10	姫神山での測定
H27. 6. 13	姫神山での測定
H27. 7. 5	岩手山での測定

震災後の高値から減少傾向

実施日	定点観測
H27. 6. 10	姫神山:一本杉で定点観測4ヶ所を設定 参加人員6人
H27. 6. 13	姫神山:一本杉で定点観測4ヶ所をテープで印 参加人員10人
H27. 7. 5	姫神山:一本杉で定点観測の実施 参加人員10人
H27. 8. 6	姫神山:一本杉で”心のスクッチ山行クラブ”がスクッチによる定点観測実施

来年度も引き続き楽しい自然保護活動を継続していきます。

## ● 広報部

報告者 久保 加世子

1. 会報「あかげら」の発行  
2014年10月～2015年9月において、会報「あかげら」をNo.311号から322号まで月に1回、例会時に発行しました。  
また、希望者に対し、「あかげら」のメール配信を行っています。
2. 年報「山友」の発行  
第26号を2014年11月28日に発行しました。

広報部の仕事は、月1回の会報「あかげら」の発行と年1回の年報「山友」の発行です。  
「あかげら」「山友」とも、会員の皆様のご協力をいただいて発行することができました。  
どうもありがとうございました。

## ● 事務局

報告者 中松 祐子

主な活動は下記の通りです。

- 入会・退会の手続き（全国連）
- 登山時報の購読手続き
- 入会等各種問い合わせへの対応
- 運営委員会・例会の運営（ミニ講座の企画等）
- 例会時の受付業務（あかげら、登山時報などの配布）
- オリエンテーション（山友会の紹介、会費や新特別基金等の説明など）
- 会報誌（あかげら・山友）の発送業務
- 会装備品の管理（保管は2014/5月以降、分担管理へ変更）
- 会場の手配（勤労福祉会館）
- 会計業務
- 会員名簿作成
- 岩手県連カレンダー販売促進
- 登山教室テキストの改訂
- 各種資料の印刷

2014/10月～2015/9月までに入会された方は13名です。昨年に引き続き会員による声かけやホームページを見て会の活発な活動に刺激を受け入会を決めた方、問い合わせ等をされる方が多数ありました。登山教室受講者からの入会者は1名でしたが、目的を持って入会される会員が多いことから4月以降の退会者は1名となっております。

各種事務作業においては、個人に業務を集中することなく分担して作業をすることとし、事務局内・各専門部とも連携しながら会運営が滞りなく行われるように心がけました。ミニ講座はマンネリ化とまらない題材をテーマに企画することで、魅力ある例会を開催し出席率UPを目指しました。

例会の受付業務をお手伝いくださる会員の皆様、いつもありがとうございます！！

2016年は創立30周年の記念の年となります。諸先輩方が築き上げた山友会の歴史を大切に、岩手を代表する山岳会として今後も活動・活躍できるよう、会の活動に携わっていきたく思っております。



雪崩講習（初級）



雪崩講習（講師養成）



お花山行 栗駒山



花巻山友会 40周年記念事業



県外合同遠征山行 赤岳



県外合同遠征山行 美ヶ原

# 志向別グループからの活動報告

## ◆ 四季の山

代表 畑中 善四郎

「四季の山」は春夏秋冬、日帰りや小屋泊まりなど多様な山行と併せて季節の草花を楽しむ会として活動しています。

五葉山黒岩コースでは登山道脇に群生する九輪草の花が綺麗でした。

	実施日	山名 コース	参加人数
1	2014 10月26日	栗駒山	9人
2	11月23日~24日	三石山 松川コース	4人
3	12月20日~21日	五葉山 赤坂峠コース	3人
4	2015 1月10日~11日	鶏頭山	中止
5	2月21日~22日	赤林山	7人
6	3月21日~22日	乳頭山 孫六コース	5人
7	4月4日~5日	八幡平	4人
8	4月25日~26日	金ヶ崎駒ヶ岳（うがい清水コース）	7人
9	6月7日	五葉山 黒岩コース	7人
10	7月12日	乳頭山、千沼ヶ原（黒湯温泉から）	7名
11	8月1日~2日	裏岩手縦走	中止
12	9月5日~6日	岩手山七滝コース	中止
13	10月11日	太平山	中止

## ◆ グループゆうゆう

代表 岡 義博

ゆうゆうは下山後のお楽しみを続けます。

里山から始めましょう！！会員の皆様是非ご参加をお願いします。

### 山行状況

H26.10.19	片羽山	8人	世界遺産認定前の橋野高炉跡を見学しました。
H26.10.23	忘年会	11人	ちょっと早い忘年会楽しく美味しいお魚料理で山の話で盛り上がりました。
H26.11.18	稲庭岳		雨で中止でした
H26.12.14	宇霊羅山	5人	下山後は名物ラーメン(牛乳ラーメン)昔の教室設定でいただきました。
H27.1.22	鞍掛山	5人	西側コースから頂上分岐から東側コースを磁石を林道出合いに合せて自由に下山後温泉
H27.2.19	高洞山	5人	うるさい犬の歓迎と見送りをいただき山行し”こびり食堂”で昼食
H27.3.24	室根山	4人	下山後は美味しいケーキでご満足でした。
H27.4.18	国見山	7人	花見客で交通渋滞でしたが、昼は美味しい豚汁をいただきました。
H27.5.28	稲庭岳	7人	下山後は天台の湯で昼食と温泉でした。
H27.6.6	岩神山・兜明神	4人	熊の落とし物を横に見ながら、ワラビ、フキ、等山の恵みを戴きました。
H27.7.30	五葉山	6人	下山後は五葉温泉で、ひと汗を流しました。
H27.8.23	裏岩手縦走		松川温泉で1泊の予定が、、、雨で中止
H27.9.22	駒ヶ岳	9人	ブナ林の森林浴を浴びながらの山行で、下山後は温泉でした。
H27.10.1	栗駒山	6人	須川から早い紅葉を見ながら下山し、温泉に入ります。

# 岩手の名山あるこうかい

代表 日比野 保子

岩手県内の山を中心に、東北の山への山行を実施してきました。  
四季折々の自然や花々を楽しみながら、心と体のリフレッシュを目的に活動しています。  
今年度も毎月一回以上の山行を計画して、季節ごとの山の魅力を満喫しました。  
これからも県内の魅力ある山の企画に取り組み参加者を増やしたいと思います。

## I. 一年間のまとめ

日程	山名・コース等	担当者	参加人数
10月13日	焼山(後生掛～焼山ピストン)	北田	6人
11月3日	霞露ヶ岳(渡磯海岸口周回コース)	級木	13人
12月23日	姫神山(城内コース)	岡	5人
1月18日	赤林山(つどいの森コース)	加藤(桂)	4人
2月11日	桐の木沢山	日比野	6人
3月28日	穴目岳	畑中	10人
4月19日	貝吹山	千田	4人
5月17日	箱ヶ森(猪去沢周回コース)	工藤(敬)	3人
6月21日	岩手山(馬返しコース)	工藤(敬)	7人
8月22日～23日	虎毛山(秋田県 神室連峰)	日比野	中止
8月30日	南本内山(中沼～東焼石岳コース)	熊谷(久)	中止
9月27日	牛形山、鷲ヶ森山	級木	7人
10月4日	三ツ石山滝ノ上コース)	加藤(桂)	7人

## II. 県外山行

昨年まで取り組んだ日本アルプスへの山行は、個人山行での企画に期待して取りやめました。  
東北の百名山は続けていくことになりました。

## ◆ 県境の風

代表 小田 嘉洋

岩手県の県境・総延長 487 km を踏破しようと壮大な目標を持って平成 19 年 3 月 16 日志向別グループが誕生したと聞きました。現在まで 7 年半の年月と 74 回の山行を重ね、残り 83.0 km まで来ております。県境の 9 割は登山道のない藪ルートです。熊の巣のわきを通り、たまには威嚇の唸り声を聞き、糞、毛、食べ残しを横目で見ながら、崖、沢、残雪を歩くのは、まさしく一般登山ルートでは味わえない醍醐味です。登山道を歩く山行と違い色々なハプニングや危険なこともありますが、地図、コンパス、GPS を使いルートファインディングを繰り返すことにより、安全な山行と道迷いの度胸とノウハウがつく (?) と考えます。

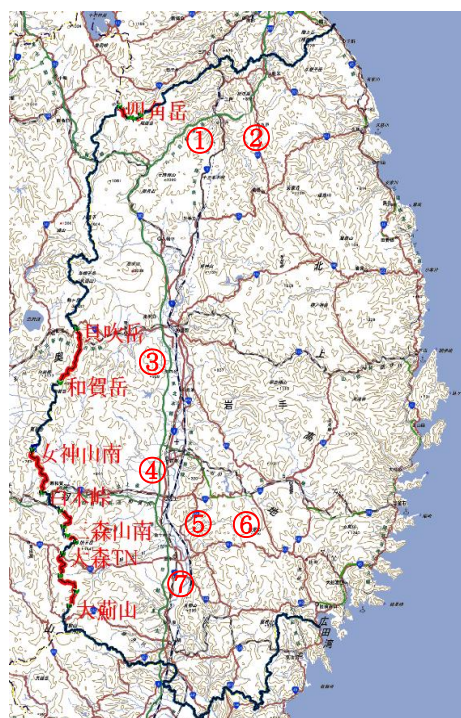
【1年間の活動報告】 14回 64.4 km 延べ 80 人

NO	月日	実施場所	メモ等	距離 (km)	参加人数	受付	CL
61	10/18	三森山登山道	藪へ入らず退却	0.3	4 人	本間	小田
62	12/20	兄畑～兄畑 P610	風も無く冬景色を楽しむ	2.4	5 人	高橋	高橋
63	01/18	兄畑 P610～兄畑 P753	無風の深雪ラッセルを楽しむ	2.1	9 人	石澤	小田
64	03/21	兄畑 P763～兄畑 P838	下山で倍以上の時間(3H)	2.3	8 人	小田	加藤
65	04/12	栗駒山～鞍掛沼上部	銀世界 古川・府金コラボ	11.7	5 人	小田	小田
66	04/25	八幡平～寒ノ背峠	銀世界 古川・府金コラボ	14.2	4 人	小田	小田
67	5/3～5/4	須川温泉～大薊山	橋本・小田 ヒヤリハット	7.1	7 人	本間	小田
68	5/3～5/4	上東山～大柳分岐	県境区間殆ど進めず	0.5	6 人	本間	加藤
69	05/09	寒ノ背峠～兄畑 P763	春の各種山菜採集	4.1	6 人	松田	小田
70	05/30	蟻巣山登山口～蟻巣山	蟻巣山～三界山残す	1.8	4 人	岡	小田
71	06/06	県道 195～二ッ森(P644)	昼食後方向を間違ひ下山	4.7	6 人	日比野	本間
72	06/14	二ッ森(P644)～独鈷森	筍・ふき等採集、熊の気配	5.2	5 人	日比野	本間
73	07/12	独鈷森～中岳	下山遅れ (滝沢 IC1:30)	3.7	7 人	熊谷	小田
74	09/22	女神山～南 3.3 km 地点	キノコ採集、300m 残す	4.3	4 人	小田春	小田

残りのコース

2015/10/01 現在  
右の図県境の赤表示部分

NO	残コース	距離 (km)
①	田子杉倉沢林道～P896	2.4
②	四角岳～大倉森下部	6.0
③	貝吹岳～和賀岳	20.1
④	女神山南～白木峠	17.2
⑤	湯川沼～三森山南	8.3
⑥	蟻巣山～三界山	3.7
⑦	大森TN～大薊山	25.3
	合計	83.0





## ◆ ウィークディークラブ

代表 工藤 敬子

ウィークディークラブは、特に曜日を限定せず、主に里山を、時には縦走も楽しんでいます。今年度は、雨天により2回中止となりましたが、泥湯三山の縦走、残雪期の岩手山、早池峰山のロングコース等にも挑戦し楽しみました。

山行一覧表

	年月日	山名	参加人数
1	2014年 10月9日(木)	泥湯三山	5名
2	11月13日(木)	六甲牛山	中止
3	12月11日(木)	平庭岳	5名
4	2015年 1月29日(木)	東根山	4名
5	2月23日(月)	黒森山	4名
6	3月15日(日)	鎌倉山	5名
7	4月23日(木)	岩手山	5名
8	5月12日(火)	安家森～遠別岳～平庭岳	中止
9	6月23日(火)	早池峰山(門馬コース)	4名
10	7月8日(水)	焼山	4名
11	8月25日(火)	岩手山	5名
12	9月3日(木)	早池峰山(平津戸コース)	5名

## ◆ 心のスケッチ山行クラブ

代表 工藤 敬子

心のスケッチ山行クラブは、春から秋までの暖かい時期のみ活動しています。低山をゆっくり登り、花や景色を観て自然を心に刻みスケッチや写真撮影等楽しんでいます。活動期間を例年5月から10月までとしています。今年度は5月に計画できず、さらに雨天により3回も中止となり2回のみの実施となりました。しかし、8月の姫神山では登山道の定点観察地点3か所のスケッチを試みるなど初めてのことに挑戦してみました。

	月日	山名	参加人数
1	6月18日(木)	又一の滝	中止
2	7月1日(水)～2日(木)	岩手山	中止
3	8月6日(木)	姫神山	4名
4	9月29日(火)	八幡平	中止
5	10月29日(木)	箱が森	5名

## ◆ グループ銀世界

代表 山田 潔

- ◎ グループ銀世界の 2014～2015 シーズンの活動は、会山行 20 回、個人山行 22 回で合計 42 回の山行で、延べ 183 人の参加がありました。初めて個人山行が会山行を上回り、個人でのバリエーションに富んだ山行も多くなって来ました。
- ◎ 天峰山、アイオン沢、和賀岳等の新しいルートも開拓できステップアップ続けてます。

<1月 11 日 三ツ石山>



1月 18 日 天峰山から 5 時間歩いた姫神山

2月 7 日 姥倉山にも樹氷ありました



2月 21 日 源太森の樹氷群はすばらしい

3月 21 日 秋田駒男岳・女岳をバックに



4月 4 日 和賀岳山頂にて達成感に大満足

参加者 石川・久保・木村H・木村M・武田・大峠・菊地Y・加藤・松田N・松田Y・府金・福山・藤本・高橋E・山田S・三浦A・三浦Y・古川・徳永・渡部・小田・本間・松田A・齋藤M・渡辺K・安井・山田(K)・大森・斉藤S・中松

		山行計画	形態	参加者	人数
12月	4木	ミーティング		木村H・斉藤M・高橋E・土屋・久保・山田K・菊地Y・三浦Y・福山・武田	17
	28日	犬倉山レスキュー訓練(綱張)	会	三浦A・古川・木村M・松田N・松田Y・府金・本間・徳永・石川・大峠	20
1月	4日	岩神山(新年山行)	会	古川・徳永・木村H・府金・三浦A・本間・大峠	7
	10土	下倉山	会	三浦A・和田・府金・小泉・徳永・石川・大峠・三浦Y・成瀬	9
	11日	三ツ石山	会	古川・木村M・斉藤・村田・大峠・藤本・小泉+山田K	8
	12月	八幡平(屋棟岳)	個	久保	1
	18日	天峰山～姫神山	会	古川・松田N・松田Y・山田S・大峠・藤本・石川・三浦Y+山田K	9
	21水	大松倉	個	福山夫妻	2
	29木	三ツ石山	個	福山	1
2月	7土	鎌倉山	会	山田K・大峠・徳永・菊地Y・府金	5
	8日	小松倉山	会	大峠・徳永・石川・久保・斉藤M・山田S・武田・菊地Y・木村M・中松	10
	11水	貝吹山	会	徳永・大峠・斉藤M・三浦A・菊地Y・武田・府金・福山・小田	9
	1415	桐の木沢山	個	石川・久保・徳永・木村M・中松	5
	21土	秋田八幡平	個	福山夫妻	2
	21土	岩手八幡平	個	山田K・古川・藤本・木村H	4
	22日	秋田八幡平	会	武田・大峠・村田・山田S	4
	28土	岩手山	個	古川・山田K・藤本・木村H	4
3月	8日	栗駒山	会	徳永・大峠・三浦Y・中松・久保・府金・福山	7
	14土	キャットで秋田駒	会	三浦A・府金・村田・徳永	4
	15日	乳頭から秋田駒	個	山田K・古川・三浦Y	3
	16月	中倉山	個	福山	1
	21土	国見～横長根	会	徳永・三浦A・安井・大峠・山田k・木村H	6
	21土	旧八幡平スキー場	個	久保 他	1
	22日	姥倉～松川 市民ツアー	個	小田・他企画	1
	22日	国見～横長根	個	武田・山田S	2
	28土	稲庭岳	会	三浦A・石川・徳永・大峠・久保	5
	28土	早池峰アイオン沢	個	古川・山田K・木村H	3
	29日	岩手山ハート沢	会	石川・大峠・府金・安井・中松・福山・武田	7
4月	4土	和賀岳	個	古川・山田K・藤本・小泉	4
	4土	三ツ石山	個	福山	1
	1112	月山～肘折温泉	個	安井 他企画参加	1
	11土	栗駒山(県境)	会	小田・本間・古川・府金・(松田)	5
	12日	焼石岳	会	大峠・木村H・三浦A・三浦Y・村田・小泉・山田S・武田	8
	16木	青松葉山	個	福山ほか	1
	18土	焼山	会	大峠・三浦A	2
	19日	源太ヶ岳	個	渡部・久保・松田Y・松田N	4
	19日	焼山	個	福山	1
	25土	鳥海山	会	大峠・村田	2
	25土	大深岳	個	福山	1
25土	八幡平(県境)	会	小田・古川・府金・(松田)	4	
25土	湯殿山・鳥海山	会	山田k・木村H・三浦A・小泉	4	
26日					
5月	6水	南八甲田(乗鞍岳)	個	渡部	1
	11月	鳥海山(祓川)	個	福山・本間・府金	3
	16土	月山・鳥海山	個	大峠	1
	17日				

会山行20回 個人山行22回

183

# 「ラウド・アドベンチャー」

志向別グループ (Since 2013)

2015 活動報告



早池峰縦走 (日の出とともに出発は、寒いね)

春、秋はマルチピッチを含むクライミング、夏は沢登り、冬はアイスクライミングと年間を通じて山行を楽しみながら、リードクライマーを目指します。勉強し合いながら進めていきましょう。

当面は、

①**土曜日の川目での朝練**(自然の岩場により近い川目を中心とした朝練、クライミングとロープワーク、ギアの使い方、クライミングレスキューを重点に、クライムズロープワークの内容を中心にトレーニングする)9:00～15:00

## ②クライミング技術スキルアップ講座

3/28(土) 展勝地—クライミング・人口登攀、

4/4(土)北川目—懸垂下降ロープワーク・クライミング・ギアの使い方、

4/12(日)南川目フリークライミング・ヒール方法、

4/18(土)北川目—(クライミング・リード)のシステム・高度なロープワーク、レスキュー

\*雨天時大迫体育館でクライミングあり

## ③リードクライマー養成講座について—リードクライマー養成講座は休みます

年間計画等 (\*は教育遭対部の計画です)

4月25(土)～26(日)猿岩合宿→道路事情により鎌倉山に変更

5月2～3日—岳沢→天候不順で猿岩に変更 3名

\*5月9(土)～10(日)八幡平 ヒッケル・アイゼンワーク、滑落停止訓練

\*5月17日(日)川目 クライミング技術講習会(沢登りやクライミング入門の方、北アルプス縦走の方必ず受講の事)

5月30(土)～31(日)—丸森クライミング 6名

\*6月27(土)～28(日)沢登り搬出訓練(東北ブロック—宮城県) 4名

7月11(土)～12(日)—岩手沢屋交流会「焼切沢」岩手山・七滝コースから入渓 12名

\*7月26(日) 沢登り入門講座 中の又沢 雨天中止

8月22(土)～23(日)—大滝沢 福島あづま連峰(盛岡から高速で約6:00、小笠原さん参加) 雨天中止

8月30(日)—小柳沢遡行 駒ヶ岳・南面です(笹森の先に出ます) 登り6:00、降り3:00間 雨天中止

9月4～6日—\*北岳パトリス 5名



北岳パトリス(凹んだ所が崩壊した松の木残りの上部、厳しい左側の岩壁を越えて行く)—マツ箱懸垂後

- \* 9月13(日) 登山の基本講座
- \* 9月26(土)～27(日) 県連クライミングレスキュー講習会(展勝地-全国連今井) 岩手9名、宮城8名、福島2名
- \* 10月17(日) 冬山入門講座/座学
- \* 10月18(日) 冬山入門講座/実技
- \* 11月15(日) 冬山入門講座/実技
- \* 12月12(土)～13(日) 鶏頭山 冬山入門講座修了山行
- 12月29(火)～30(水) 早池峰 申込み受付: 小島
- 2016/ 1月8(金)～11(祝) ハヶ岳(冬山・アイスクライミング) 申込み受付: 田中均
- アイスクライミング月間!! 申込み受付: 高橋祐子
- 1/24(日) 奥入瀬下見
- 2/7(日) 奥入瀬
- 2/13(土)～14(日) 奥入瀬合宿 申込み受付: 下机
- 2/19(金・夜)～23(火・早朝) 層雲峡(実施について検討中)
- 3/19(土)～20(日) 早池峰縦走 申込み受付: 長谷川

# 「ラウンド・トレッカー」

志向別グループ(Since2009)

2015 活動報告



宮島にて(2015年9月、長谷川さん参加して)

今までは「タイマグラ」キャンプと秋の薬師岳登山、広島宮島一周、四国の旅、北アルプス表銀座縦走、北欧最高峰(2400m)ルウェーガルピツク登山をおこないました。

三陸潮風トレイル(蕪島～小袖海岸100km)、福島までの700kmに及ぶ日本のロングトレイル走破を目指す計画ですー7/18(大久喜～角の浜、5名)10/31(角の浜～玉川、5名)他三回実施、宮島-四国 OR 九州、9/19(土)～23(祝)、24(木)中止、長谷川さんのみ宮島交流会に参加



# 過去1年の山行実績一覧表〈会山行〉

2014年11月～2015年10月

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
1	11月3日	露霞ヶ岳	澁磯海岸口～赤平～山頂～参道コース口～澁磯海岸口	L級木・S千田(勝)・中村(美)・浦部・川村(雅)・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)・北田・菊地(広)・菊地(良)・本間(典)・吉田(成)	13	会
2	11月16日	岩手山(五合目付近まで)	柳沢コース	L長谷川 【1班】S下机・S中村(数)・野中・高橋(陽)・畑中・岡(義)・館澤・能勢 【2班】S田中(均)・S藤本・石澤・級木・高橋(英)・高橋(祐)・成瀬 【3班】S大林・S小島・工藤(敬)・府金(志)・小田(嘉)・福山(茂)・土屋・河合 【アドバイザー】橋本(久)・木村(一)	26	会
3	11月22日	北見山地(夏虫山周辺)	国道45号の羅生トンネル南口手前から夏虫山方面	工藤(敬)・北田・河合・阿部(美)・中村(美)	5	会
4	11月23日	砥森山	向田瀬バス停～山頂往復	L千田(勝)・S浦部・川村(雅)・級木・菊地(広)・菊地(良)・菅原(秀)・岡(義)	8	会
5	11月23日～11月24日	三ツ石山	松川コース	L畑中・S日比野・工藤(敬)・熊谷(久)	4	会
6	11月30日	七座山	天神登山口～七座山～松倉登山口	L松田(徹)・S千田(勝)・加藤(桂)・塚本・工藤(敬)・級木・太田代・本間(典)・遠藤(千)・	10	会
7	12月6日～12月7日	鶏頭山	岳コース	L下机・S木村(一)・新田・石澤・野中・安井・小田(嘉)・小島・高橋(祐)・福山(茂)・岡(義) 【6日日帰り】L和田・S河合・土屋・府金(志)・畑中・館澤	17	会
8	12月11日	平庭岳	平庭岳口～平庭岳往復	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・北田・小田(嘉)	5	会
9	12月14日	宇霊羅山(604m)、音床山(716m)	和山林道口～宇霊羅山～音床山往復	L中村(美)・S畑中・吉田(成)・岡(義)・土屋(ひ)	5	会
10	12月20日	高畑山(667.1m 秋田県境)	兄畑登山口～高畑山～P609～岩手県側車道	L高橋(陽)・S本間(典)・小田(嘉)・岡(義)・加藤(桂)	5	会
11	12月20日～12月21日	五葉山(1,341.3m)	赤坂峠コース	L級木・S新田・工藤(敬)	3	会
12	12月23日	姫神山(1,123.8m)	城内コース	L工藤(敬)・S級木・遠藤(千)・北田・岡(義)	5	会
13	12月28日	黒石山	工芸社駐車場～山頂往復	L千田(勝)・S太田代・加藤(桂)・岡(義)	4	会
14	1月3日～1月4日	兜明神岳	ウォーキングセンター～山頂往復	L下机・S田中(均)・S中村(数)・新田・中根・石澤・小田(嘉)・小島・高橋(祐)・成瀬	10	会
15	1月4日	岩神山	ウォーキングセンター～山頂往復	L古川・S徳永・府金(志)・本間(典)・三浦(明)・大峠	6	会
16	1月4日	兜明神岳	ウォーキングセンター～頂上往復	L熊谷(久)・S加藤(桂)・千田(勝)・中村(美)・遠藤(千)・川村(雅)・日比野・小田(春)・岡(義)・土屋(ひ)	10	会
17	1月9日～1月12日	八ヶ岳	ジョーゴ沢、赤岳西壁主稜	L下机・S大林・S田中(均)・小島・河合	5	会
18	1月10日	下倉山、中倉山	下倉スキー場周辺	L三浦(明)・S大峠・山田(純)・菊地(良)・府金(志)・本間(典)・和田・小泉・徳永・成瀬	10	会
19	1月11日	三ツ石山	網張～山頂往復	L大峠・S古川・木村(三)・齋藤(睦)・藤本・小泉・村田	7	会
20	1月11日	太田薬師	上猪去口～山頂往復	L千田(勝)・S太田代・日比野・熊谷(久)・加藤(桂)・吉田(成)・小田(春)	7	会
21	1月18日	姫神山	天峰山～姫神山往復	L古川・S松田(幸)・S石川・松田(希)・三浦(良)・藤本・大峠・山田(純)	8	会
22	1月18日	赤林山	つどいの森コース	L級木・S日比野・中村(美)・熊谷(久)	4	会
23	1月18日	秋田県境(兄畑周辺)	一般道兄畑口～P610～兄川一般道出合	L小田(嘉)・S中村(数)・S本間(典)・石澤・加藤(桂)・高橋(陽)・岡(義)・中根・塚本	9	会
24	1月22日	鞍掛山(897.1m)	相ノ沢コース(右回り)	L太田代・S吉田(成)・中村(美)・池端・岡(義)	5	会
25	1月29日	東根山	ラ・フランス口～山頂往復	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・級木	4	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
26	2月7日	鎌倉森、姥倉山	網張スキー場～姥倉山～犬倉山～鎌倉森～網張温泉館	L山田(潔)・S大峠・S徳永・菊地(良)・府金(志)・古川	6	会
27	2月8日	小松倉山	網張スキー場～小松倉山～奥産道ゲート	L大峠・S石川・S久保・徳永・木村(三)・齋藤(睦)・山田(純)・菊地(良)・武田(秀)・中松	9	会
28	2月8日	黒森山(837.3m)	深沢コース	L熊谷(久)・S千田(勝)・級木・加藤(桂)・吉田(成)	5	会
29	2月11日	桐ノ木沢山(1,209m)	桐ノ木沢コース	L日比野・S熊谷(久)・工藤(敬)・級木・加藤(桂)・高橋(陽)	6	会
30	2月11日	貝吹岳	仙岩トンネル口～仙岩峠往復	L徳永・S大峠・S三浦(明)・福山(茂)・齋藤(睦)・武田(秀)・小田(嘉)・府金(志)・中松	9	会
31	2月14日	烏泊山(387m)	大釜高森コース	L加藤(桂)・S中村(数)・S小田(嘉)・工藤(敬)・本間(典)・高橋(陽)・岡(義)・塚本	8	会
32	2月14日～2月15日	桐ノ木沢山、兜山荘	桐ノ木沢口コース、区界ウオーキングセンターコース	L石川・S久保・徳永・木村(三)・中松	5	会
33	2月19日	高洞山(522m)	上米内駅～なめこ平～山頂往復	L岡(義)・S太田代・中村(美)・川村(雅)・吉田(成)	5	会
34	2月21日～2月22日	赤林山(855m)	矢巾温泉コース	L中村(美)・S新田・久保系・級木・高橋(陽)・日比野・熊谷(久)	7	会
35	2月22日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	L武田(秀)・S大峠・村田・山田(純)	4	会
36	2月23日	黒森山	万寿抗口～ガロの滝～黒森山往復	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・本間(典)	4	会
37	3月8日	栗駒山	いこいの村～イワカガミ平～山頂往復	L大峠・S久保・三浦(良)・府金(志)・福山(茂)・徳永・中松	7	会
38	3月14日	秋田駒ヶ岳	アルパコマクサ～男女岳往復	L三浦(明)・S徳永・府金(志)・村田	4	会
39	3月14日～3月15日	早池峰	岳～うすゆき山荘周辺	L田中(均)・S中村(数)・S木村(一)・石澤・藤本・小田(嘉)・高橋(陽)・高橋(祐)・成瀬・館澤・萩谷・河合・圓子 【15日帰り】小島	14	会
40	3月15日	鎌倉森、犬倉山	ビジターセンター～鎌倉森～犬倉山～スキー場	L工藤(敬)・S本間(典)・級木・小田(春)・畑中	5	会
41	3月21日	乳頭山	孫六コース	L熊谷(久)・S畑中・日比野・級木	4	会
42	3月21日	秋田県境(兄畑周辺)	兄畑登り口～県境取付き～P830～P838～折合沢出合い	L加藤(桂)・S本間(典)・府金(志)・辰巳・小田(嘉)・高橋(祐)・岡(義)・中松	8	会
43	3月21日	秋田駒ヶ岳(横長根)	仙岩トンネル口～横長根往復	L徳永・S三浦(明)・大峠・山田(潔)・安井・木村(一)	6	会
44	3月21日～3月22日	早池峰	岳～鶏頭山～早池峰～河原ノ坊～岳	L下机・S田中(均)・S中村(数)・小島・成瀬・河合	6	会
45	3月26日	室根山(895.4m)、矢越山(516.8m)	蟻塚～室根山往復、矢越神社～矢越山往復	L中村(美)・S太田代・本間(典)・吉田(成)	4	会
46	3月28日	穴目ヶ岳	大石沢集落～山頂往復	L畑中・S本間(典)・工藤(敬)・日比野・級木・中村(美)・川村(雅)・小田(春)・吉田(成)・土屋(ひ)〔会員外〕1名	10	会
47	3月29日	岩手山	馬返し～ハート沢右岸尾根～二本松展望所往復	L石川・S山田(純)・S大峠・安井・府金(志)・福山(茂)・中松・武田(秀)	8	会
48	4月4日	和賀岳	高畑口～高下岳～根菅分岐～和賀岳往復	L古川・S山田(潔)・藤本・小泉	5	会
49	4月4日～4月5日	八幡平・陵雲荘	旧八幡平スキー場～茶臼山荘～源太森～山頂～陵雲荘～旧八幡平スキー場	L級木・S工藤(敬)・日比野・畑中	4	会
50	4月12日	焼石岳	ツブ沼～第2ゲート～銀明水小屋～山頂往復	L大峠・S木村(一)・三浦(明)・村田・三浦(良)・武田(秀)・山田(純)・小泉	8	会
51	4月12日	笹倉山、葉菜山	御門杉口～笹倉山往復、鳥居口～葉菜山往復	L千田(勝)・S太田代・熊谷(久)・加藤(桂)・川村(雅)	5	会
52	4月12日	栗駒山周辺	いこいの村～栗駒山～県境～鞍掛沼上部(県道49号出合)	L小田(嘉)・S古川・S本間(典)・府金(志) サポート: 松田(徹)	5	会
53	4月18日	焼山	後生掛温泉～梅森～焼山往復	L大峠・S三浦(明)	2	会
54	4月18日	国見山(北上)	極楽寺登山口～山頂往復	L太田代・S吉田(成)・小川(優)・岡(義)・佐藤(妙)・中村(美)〔会員外〕1名	5	会

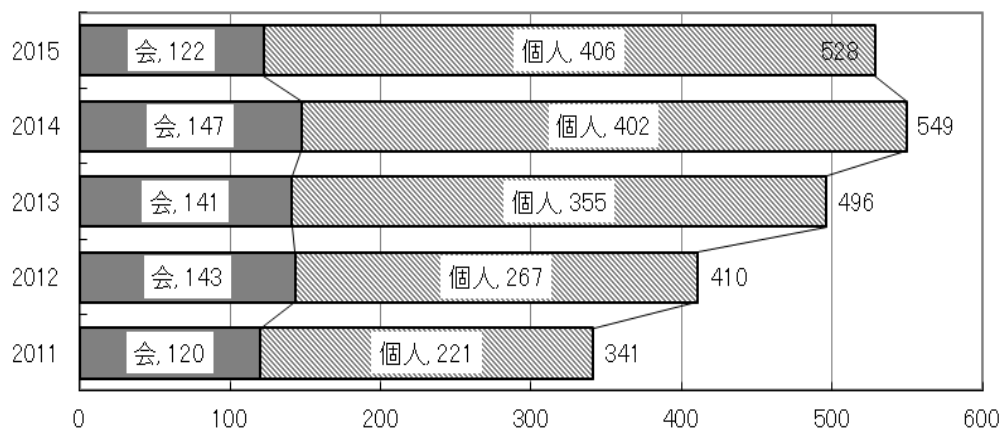
No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
55	4月19日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	L千田(勝)・S吉田(菊)・川村(雅)・岡(義)	4	会
56	4月23日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・級木・日比野	5	会
57	4月25日	八幡平(秋田県境)	見返り峠～八幡平～ふけの湯分岐～寒ノ背峠～国道341号	L小田(嘉)・S古川・府金(志) サポート:松田(徹)	4	会
58	4月25日～4月26日	金ヶ崎駒ヶ岳(1,130m)、経塚山(1,373m)	うがい清水コース	L日比野・S級木・工藤(敬)・本間(典)・加藤(桂)・高橋(陽)・新田	7	会
59	4月25日	鎌倉山	西壁	L下机・S橋本(久)・S田中(均)・安井・和田・小島・河合・齋藤(睦)	8	会
60	4月25日～4月26日	湯殿山、月山	姥沢～姥ヶ岳～湯殿山～姥沢、姥沢～姥ヶ岳～月山～姥沢	L山田(潔)・S木村(一)・三浦(明)・小泉	4	会
61	4月29日	金華山	金華山港～金華山～二の御殿跡～金華山港	L千田(勝)・S武田(秀)・川村(雅)・土屋(ひ)	4	会
62	5月2日～5月3日	猿岩	右ルート他	L下机・小島・河合	3	会
63	5月3日	蛤山	南蔵王青少年旅行村先(登山口)～蛤山往復	L千田(勝)・S遠藤(千)・武田(秀)	3	会
64	5月3日～5月4日	秋田県境(桑原岳)	須川温泉～大蘆山往復	L小田(嘉)・S橋本(久)・中根・塚本・藤本・高橋(祐) サポート:松田(徹)	7	会
65	5月3日～5月4日	秋田県境(桑原岳)	東山コース～上東山往復	L加藤(桂)・S中村(数)・日比野・高橋(陽)・中松 サポート:本間(典)	6	会
66	5月6日	鎌倉山	西壁	L下机・S小島・S河合〔会員外〕2名	3	会
67	5月9日	秋田県境(寒ノ背峠、竹ノ子平)	坂比平口(鹿角市)～寒ノ背峠～竹ノ子平～角麓平～P763往復	L小田(嘉)・S本間(典)・小田(春)・工藤(敬)・級木・加藤(桂)	6	会
68	5月17日	箱が森	猪去沢周回コース(右回り)	L千田(勝)・S吉田(菊)・吉田(成)	3	会
69	5月28日	稲庭岳(1,078.0m)	稲庭高原～頂上～駒形登山口	L吉田(成)・S太田代・中村(美)・川村(雅)・小川(優)・菅原(秀)・岡(義)	7	会
70	5月30日～5月31日	丸森(宮城県)	岩場	L田中(均)・S下机・S安井・和田・小島・小泉〔会員外〕1名	6	会
71	5月31日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	L本間(典)・S級木・日比野・熊谷(久)・北田・大倉・三澤	7	会
72	5月31日	秋田県境(蟻巣山、三界山)	蟻巣林道峠～蟻巣山～三界山往復	L小田(嘉)・S中村(数)・塚本・岡(義)	4	会
73	5月31日	ナメト山	豊沢権現口～山頂往復	L千田(勝)・S武田(秀)・高橋(恵)・徳永	4	会
74	6月6日	礼文岳	内路口～山頂往復	L千田(勝)・S加藤(桂)・太田代	3	会
75	6月6日	秋田県境(ニッ森、独鈷森)	県道195号県境～対岸県境～ニッ森～独鈷森～	L本間(典)・S中村(数)・日比野・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)	6	会
76	6月7日	鞍掛山	相ノ沢コース	【A班】L小島・S中村(数)・スタッフ戸田・金子・大倉〔会員外〕3名 【B班】L長谷川・S遠藤(千)・スタッフ福山・土屋(ひ)・大木・小原〔会員外〕2名 【総括】L下机・S高橋(祐)・吉田(成)・菅原(秀)・小川(優)	17	会
77	6月7日	五葉山(1341.3m)	黒岩コース	L級木・S工藤(敬)・中村(美)・熊谷(久)・北田・畑中・本間(典)	7	会
78	6月13日	姫神山	一本杉コース	L岡(義)	1	会
79	6月13日	姫神山	一本杉コース	L中村(美)・S級木・川村(雅)・工藤(敬)・北田・畑中・千葉(和)・大木・大倉	9	会
80	6月14日	増川岳	増川口～山頂往復	渡邊(健)〔会員外〕31名	1	県連
81	6月14日	秋田県境(独鈷森)	茂谷地林道～P644m～独鈷森～茂谷地林道	L本間(典)・S中村(数)・日比野・小田(嘉)・小田(春)	5	会
82	6月14日	紫波三山(東根山、南昌山、赤林山)	ラ・フランス口～東根山～南昌山～赤林山～矢巾温泉	L成瀬・S舟越・柚澤・高橋(陽)	4	会
83	6月20日～6月21日	三ツ石山	松川コース	L下机・S橋本(久)・S中村(数)・石澤・新田・小島・小泉	7	会
84	6月21日	岩手山	柳沢コース	L中村(美)・S本間(典)・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)・北田・級木	7	会



No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
85	6月21日	三ツ石山	松川コース	【総括】L下机・S田中(均)・高橋(祐)・吉田(成) 【A班】L小島・S中村(数)・戸田・菅原(秀)・大倉・阿部(美)〔会員外〕3名 【B班】L長谷川・S遠藤(千)・福山(茂)・中松・土屋(ひ)・大木・小原〔会員外〕2名 (総勢22名)	17	会
86	6月23日	早池峰	門馬コース	L工藤(敬)・S本間(典)・北田・石川	4	会
87	6月27日 ～6月28日	二口キャンプ場、名取川鳴虫沢出合付近		L田中(均)・S下机・S安井・小島	6	県連
88	7月5日	岩手山	柳沢コース	【A班】L中村(美)・S新田・S中村(数)・遠藤(千)・熊谷(久)・北田・武田(秀)・戸田・府金(志) 【B班】L高橋(陽)・S辰巳・本間(典)・吉田(成)・小原・大倉・舟越・三澤・柚澤	18	会
89	7月5日	姫神山	一本杉コース	L千田(勝)・S太田代・浦部・川村(雅)・山崎(祐)・高橋(恵)・高橋(英)・大木・岡(義)・菅原(秀)・土屋(ひ)	11	会
90	7月5日	岩手山	上坊コース	L渡邊(健)・S加藤(桂)・日比野・成瀬・萩谷・高橋(祐)・中松	7	会
91	7月8日	焼山	後生掛温泉～焼山～玉川温泉	L工藤(敬)・S北田・中村(美)・本間(典)	4	会
92	7月9日	源太ヶ岳	松川～源太ヶ岳～大深山荘～松川	L千田(勝)・S石澤・工藤(敬)・日比野	4	県連
93	7月12日	乳頭山・千沼ヶ原	黒湯～乳頭山～千沼ヶ原～乳頭山～孫六温泉	L北田・S新田・中村(美)・石澤・工藤(敬)・武田(秀)・畑中	7	会
94	7月12日	秋田県境	奈良助沢林道～独鈷森～中岳～登山道下山	L小田(嘉)・S中村(数)・加藤(桂)・本間(典)・高橋(陽)・大倉・小田(春)	7	会
95	7月12日	八幡平	茶臼口～黒谷地～八幡平～見返峠	L熊谷(久)・S千田(勝)・浦部・川村(雅)・高橋(恵)・太田代・土屋(ひ)・大木・佐藤(妙)・三澤	9	会
96	7月18日	三陸潮風トレイル	大久喜駅～館神社～角の浜駅	L小田(嘉)・S石澤・小田(春)・岡(義)・加藤(桂)	5	会
97	7月18日 7月20日	駒ヶ岳、ニセコアンヌプリ	六合目口～駒ヶ岳往復、ニセコ山の家～ニセコアンヌプリ往復	L千田(勝)・S遠藤(千)・工藤(敬)・日比野	4	会
98	7月18日 ～7月20日	ニセコアンヌプリ、後方羊蹄山	五色温泉コース、俱知安コース	L松田(徹)・S武田(秀)・北田・川村(雅)	4	会
99	7月30日	五葉山	赤坂コース	L吉田(成)・S太田代・中村(美)・岡(義)・佐藤(妙)・三澤	6	会
100	8月6日	姫神山	一本杉コース	L工藤(敬)・S北田・中村(美)・三澤	4	会
101	8月25日	岩手山	柳沢コース	L工藤(敬)・S中村(美)・級木・吉田(菊)・本間(典)	5	会
102	9月3日	早池峰	平津戸コース	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・北田・級木	5	会
103	9月3日 ～9月6日	北岳	広河原～左俣コース～北岳～右俣コース～広河原、クライミング:第四尾根主稜	L下机・S田中(均)・石澤・小島・和田【クライミング】L下机・小島・和田	5	会
104	9月6日	姫神山	田代コース	L千田(勝)・S菅原(秀)・浦部・川村(雅)・太田代・小田(春)・岡(義)・佐藤(妙)・高橋(恵)	9	会
105	9月6日	岩手山	柳沢コース	【A班】L古川・S高橋(陽)・中村(美)・熊谷(久)・級木・武田(秀)・三澤・大倉 【B班】L加藤(桂)・S遠藤(千)・日比野・松田(幸)・山崎(祐)・小田(嘉)・柚澤・萩谷 【C班】L辰巳・S中村(数)・工藤(敬)・北田・松田(希)・戸田・吉田(成)・金子 総括:渡邊	25	会
106	9月12日	裏岩手	畚口～畚岳～嶮岨森～大深岳～源太ヶ岳～松川温泉	L吉田(菊)・S太田代・中村(美)・吉田(成)・三澤・級木・工藤(敬)・岡(義) ※岡は松川温泉から大深岳往復	8	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
107	9月19日 ～9月20日	八ヶ岳	美濃戸口～御柱山～阿弥陀岳～赤岳～横岳～硫黄岳～赤岳鉱泉～美濃戸口	北田・級木〔会員外〕7名	2	県連
108	9月19日 ～9月20日	蓼科山、霧ヶ峰、美ヶ原	蓼科牧場～蓼科山～ピーナスライン口、霧ヶ峰・車山肩～物見山～沢渡～車山肩～山本小屋～美しの塔～王ヶ鼻～山本小屋	中村(美)・泉・中根・加藤(桂)〔会員外〕19名	4	県連
109	9月19日 ～9月21日	飯豊連峰(地藏岳・飯豊山・御西岳・烏帽子岳・北股岳・門内岳・地神山)	中津川口～本山～北股岳～天狗平	L古川・S柚澤・本間(典)・鶴田	4	会
110	9月22日	金ヶ崎駒ヶ岳(1,129.8m)	うかい清水コース	L岡(義)・S太田代・中村(美)・高橋(恵)・吉田(成)・菅原(秀)・佐藤(妙)・三戸・千葉(和)	9	会
111	9月27日	牛形山・鷲ヶ森山	夏油温泉～牛形山～鷲ヶ森山～夏油温泉	L級木・S加藤(桂)・中村(美)・日比野・北田・武田(秀)・吉田(成)	7	会
112	10月1日	栗駒山(1,627.4m)	須川温泉コース	L菅原(秀)・S小川(優)・太田代・吉田(成)・土屋(ひ)・岡(義)・三澤	7	会
113	10月4日	三ツ石山	滝ノ上コース	L加藤(桂)・S熊谷(久)・三澤・工藤(敬)・北田・本間(典)・高橋(陽)	7	会
114	10月4日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	L府金(志)・S木村(三)・柚澤・土屋(ひ)	4	会
115	10月10日	早池峰	小田越コース(1合目まで)	L岡(義)・中村(美)・日比野・太田代・吉田(成)・千葉(和)・佐藤(妙)・三澤	8	会
116	10月11日	泉ヶ岳	青年の家～表コース～山頂～水神コース～青年の家	L千田(勝)・S遠藤(千)・府金(志)・太田代・三澤・小川(優)・三戸・吉田(菊)	8	会
117	10月11日	青森県境(四角岳周辺)	市境～P961～P896往復～杉倉沢林道	L中村(数)・S本間(典)・S小田(嘉)・塚本・加藤(桂)・高橋(陽)・大倉・小田(春)・中松(明)	9	会
118	10月15日	駒頭山	鉛温泉コース	L工藤(敬)・S中村(美)・級木・本間(典)	4	会
119	10月18日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	【A班】L木村(一)・S小島・田中(均)・石澤・日比野・小田(嘉)・齋藤(睦)・大倉・舟越・中村(篤) 【B班】L長谷川・S中村(数)・S成瀬・工藤(敬)・高橋(陽)・中松(祐)・中松(明)・柚澤・金子	19	会
120	10月25日	秋田県境(女神山周辺)	女神山登山口～ブナ平～県境南下～笹峠～子規古道下山口	L小田(嘉)・S中村(数)・S日比野・中根・工藤(敬)・熊谷(久)・級木・塚本・高橋(陽)・小田(春)	10	会
121	10月25日	三ツ峠	金ヶ窪コース	S加藤(桂)〔会員外〕5名	1	全国連
122	10月29日	箱が森	猪去沢周回コース	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・北田・本間(典)	5	会

企画主体別の山行回数  
(11月～10月期)



# 2015みんなの山歩き

山友 全員  
アンケート発表!

Q1. 来年山友会は 30 周年を迎えます。会・個人を問わずやってみたい山行を教えてください。

Q2. 山で食べると美味しいものは何ですか。(食べてみたいものでもOKです。)

Q1. 盛岡山友会のオリジナル 30 名山 (ルート、形態も含めて) を選ぶ山行などいかがでしょうか?

Q2. 元々好き嫌いが無いので、山で食べるものは全て美味しいです。調味料のみ持参して現地調達  
の食材だけで料理したものを食べてみたいです。

No. 2 渡邊 健治

Q1. 北海道の山々。

Q2. フランクフルト、カップヌードル (カレー)

No. 6 千田 勝則

Q1. 個人的には、やはり岩手山かな? ルート、方法はこれから考えます。

会としての山行は、お任せ! 行きたいところの計画が出たら行きます。

Q2. 夏は、アイスクリーム。冬は、温かくて甘い汁もの。

No. 19 中村 美栄子

Q1. アラスカの星野道夫の歩いた道をたどってトレッキング。

Q2. サバティーニ。ビルズのパンケーキ。サンマの春。ナンプラーナライス…etc.  
(すべてアドベンチャーのメニューです。)

No. 27 下机 勉

Q1. 北アルプス裏銀座コースを行ってみたい。

Q2. 私の県北地方では、せんべいをよく食べるらしい。

①せんべい汁、ダシがポイント。肉、野菜をたくさん入れたスープがせんべいに染みて美味。

②せんべいに赤飯をサンドしてラップで包みしんなりして美味。

③お茶にボリボリ割って入れると香ばしくて美味。

④すき焼き鍋に入れても美味。など

No. 70 遠藤 千鈴子

Q1.30周年記念山行を岩手山とし、全員の写真を「日報笑顔集まれ」に載せたい。

Q2.鶏頭山頂でNo.178 山田純さんが持参したスイカの味。

No.109 浦部 光生

Q1.安比～八幡平（NHKの百名山で放送のコース） 秋のブナの駅から八幡平へ

Q2.フルーツ（季節のものを中心に）

No.140 石澤 妙子

Q1.岩手山のシラネアオイ（白花）を見たいです。

Q2.なんでも美味しく感じますが、特に果物が美味しいです。

No.196 工藤 敬子

Q1.県境スキー山行、朝日連峰縦走

Q2.チーズフォンデュ

No.234 古川 孝

Q1.うんと危ない系は願い下げですが、チョット危ない系の山を楽しみたい。

Q2.願わくは、芳醇なる美酒と船盛を肴に、美女との一献、山に向かいて言ふ事なし。これ願望なり。

No.235 田中 均

Q1.猿岩、黒伏山、縫道石山

Q2.山菜、きのこ料理

No.244 安井 俊二

Q1.秋の紅葉の時期ゆっくり北アルプスの縦走に行ってみたいです。春のマッキンリートレッキング。

Q2.山では何を食べても飲んでも美味しいので一つに絞るのは難しいですが、私が一番好きな行動食

は、何ととっても筋子のおにぎりです!(^^)! これを食べると不思議と疲れが体から抜けて行く  
気がします。それからやっぱりお酒は欠かせませんね!!山でなくても勿論ですが、テントや山  
小屋で仲間と一緒に語らいながらの一献はまた格別ですね(#^.^#)

No.248 長谷川 江利子

Q1.何とか歩けるうちに南アルプスの南東部の山々に行きたいです。

Q2.おにぎり、漬物、汁物…山で食べると何でも美味です。

No.250 日比野 保子

Q1.県境残り 80 kmを歩きたい。

Q2.ナベ

No.267 中村 数博

Q1.決めてはいないが、今までやろうとされていてやり残した事

Q2.ミックスナッツとカップラーメン

No. 279 松田 幸久

Q1.体力的にきつくない、楽しみながら歩ける山。(スイストレッキングみたいな)

Q2.おにぎり、果物、せんべい

No.281 北田 絹恵

Q1.どこまでも続く尾根歩きをしてみたい。

Q2.果物 (バナナ、リンゴ、ナシなど)、おいなりさん

No.288 級木 信子

Q1.集中登山。

Q2.炊きたての白いご飯(炊けるときの匂いがたまらない)。レモンスカッシュ。

No. 294 松田 希

Q1.白馬岳から唐松岳への縦走。 熊野古道もテントを持って行ってみたい。

Q2.美味しくてはまっているのは、アルコールストーブでご飯を炊いてカレーです。豆をひいていれるコーヒーも美味しいです。

No. 301 久保 加世子

Q1.槍穂高完全縦走。 高天原温泉湯治。 利尻岳から宮之浦岳へ飛ぶ。  
イエローナイフでオーロラを見る。 富士山を滑る。

Q2.α米にかけたレトルトカレー。はちみつ掛けトースト

No.305 山田 潔

Q1.玉山(台湾)。 富士山御中道めぐり (東日本女性交流会ですすすめられました。)

Q2.カレーライス (昔はよく食べたが?) 豚汁はおいしいです。

No. 307 加藤桂子

Q1.和賀岳、富士山

Q2.マロングラッセ、ラムチョコ、モロキュウ

No. 341 武田秀雄

Q1.岩手県の宮古市(浄土ヶ浜)から久慈市(小袖海岸)までの海岸線(水際)を忠実に歩く。

Q2.岩魚の握り寿司(沢の中で1泊し、岩魚が釣れば可能です。)

自分で採った山菜のテンプラ。舞茸の炊き込みご飯。山ウドの焚火焼き。

No. 350 木村 一

Q1.「岩手山を眺める山30座」 山頂から岩手山が見える山に登って記念撮影。一番遠い山は何県のどこでしょうか。

Q2.スキー山行のスープパスタは、今後冬はこれで決まり!と思ったくらい美味しかったです。

姥倉での焼きそば。のちに「焼きそば山行」といわれる程の伝説になりました?

No.357 渡部 彩子

Q1.飯豊&朝日縦走、北海道縦走

Q2.フルーツ、あわ玉、チーズ、ジャーキー、パスタ

No. 358 石川享子

Q1.具体的にどの山に行ってみたいというのはありませんが、ここ数年あまり山に行っていないので山行回数を増やしていければと思っています。

Q2.山で食べれば何でもおいしいと感じるので、具体的な物が思いつきません。

(普段は苦手な食べ物でも山で食べればおいしいと感じるかどうかは分かりませんが…。)

No. 362 戸田 新

Q1.沿岸の潮風トレイルを歩き、サンマの塩焼きを食べながらビールを飲む山行。

Q2.「もの」ではありませんが、水が美味しいです。

No. 363 小野寺 健一

Q1.秋田駒ヶ岳～烏帽子岳縦走

Q2.温かい食べ物（例えばインスタントラーメンなど）

No. 364 吉田菊男

Q1.海外ならスイス、アルプス、ハイキング 国内では九州、四国の名山

Q2.トマト（大振り）の1個丸かじり、暑い山頂で 生き返った心地でしたが、重いですね…。  
飲んでみたいもの…キンキンに冷えたビール 夕陽を見ながら山小屋で。

No.365 府金 志磨子

Q1.東北最高峰と尾瀬ヶ原

Q2.稲庭うどん入り卵スープ きのこと汁

No. 367 太田代恵久子

Q1.神室連峰（上内口～神室山～火打新道口）

Q2.山では何でもおいしい。

No. 370 本間典

Q1.海外登山（ガイド無しで行けるところ。）

Q2.スモークレバー、クリームチーズ

No. 372 辰巳 和司

Q1.スイスのマッターホルンのトレッキングをしてみたい。逆さまッターホルンを見てみたい。（中学生からの夢です。）

Q2.果物（何でも）疲れが取れるような気がします。薄い餅で作るピザ美味しかったです。

No. 373 高橋 陽子

Q1.東北の有名ではない山に登ってみたい。

Q2.味噌おにぎりとみそ汁

No. 377 菊池 重頭

Q1.営業小屋宿泊を目的にした山。沢登り。須川岳～秣岳。焼石岳。ほか色々行きたいけれど…。

Q2.山で焼き肉♡

No. 378 高橋 英里子

Q1. 南アルプス3座（きめてない）3000m級を登る。

Q2. 昼は冷たいくだもの、夜はビールに合う肉類等。

No. 385 小田 嘉洋

Q1. アラスカで地元の風土に触れて、とけこんで豊かな時間を過ごす。

Q2. 酒と肴で夜な夜な語るのが最高の幸せです。

No. 408 小島 奈緒子

Q1. 星空観察山行

Q2. ・普通におにぎり！（具はしゃけと昆布とチーズのミックス）

・福田パンのあんバター（スーパーよりもお店で買ったほうがフワフワしていて美味）

No. 410 中松 祐子

Q1. ヨーロッパアルプスでのトレッキング or スキー 大人の休日クラブパスを利用しての信州

Q2. カップヌードル、すき焼き

No.416 福山 茂和

Q1. 2月の十勝岳、三段山でパウダー三昧。夜は吹上温泉白銀荘温泉三昧。

Q2. マルタイ棒ラーメン（九州味）魚肉ソーセージ添え。

又は寿がきや小さなうどん（お吸い物味）乾燥めかぶ入り。

No. 420 徳永 光保

Q1. ①烏帽子岳 ②安比高原～茶臼岳～安比岳（周遊）③裏八幡平（蒸ノ湯～長沼～八幡平）

Q2. ①焼きそば ②たこ焼き ③ひっぱりうどん

No.433 岡 義博

Q1. 厳冬期の岩手山。

Q2. 山頂で食べるソフトクリーム（願望）

No. 437 成瀬 寛

Q1. テント泊をやってみたいです

Q2. 漬けもの 普段はあまり食べないのですが、山でいただく漬けもののはとっても美味しく感じます。

No.447 千葉 和佳子



Q1. 冬期の日高山脈登頂（あくまでも個人的にやってみただけです。）

Q2. マグロなどの赤味を醤油漬けにしたもののステーキ  
以前作って美味しかったです。山でも、においがあまりないです。

No. 456 中松 明久

---

Q1. 今使われていない旧登山道を訪ね歩く。

Q2. やっぱり おにぎり

No. 460 柚澤 瑠実子

---

Q1. 雲の平、トムラウシ、白山、カムチャッカ半島、表銀座

Q2. おにぎり

No. 461 中村 篤

---

Q1. 初級者のため、何処にどんな山があるか、知識が乏しいのですが、山小屋に泊まる山行に参加してみたいです。

Q2. 山で食べてみたいのは、トマトベースのパスタです。ガスバーナーを使って料理するのが、憧れです。アルコールを飲みながら食べてみたいです。

No. 465 三戸 紀子



## 【短歌】

No 459 三澤 信裕

岩手山険しき岩場登り来て中腹木立鶯聞こゆ

姫神は蝸滲みる蒼き森木漏れ日腕に友とし登る

## 【俳句】

No 281 北田 絹恵

沢内の里の干し柿やさしかり

女神山仲間と摘みし山葡萄

霧雨に急ぐことなく八合目



## 折りおりに

春

春の雪行ったり来たり思案せり  
春めきてシカの足跡にぎやかに  
みちのくの山のゆっくり笑いそむ  
稜線を駆け上りゆく山桜

夏

すがすがし下山の後の疲れまで  
大虹の山に向かいて走りをり  
山法師山に行ったら会える人

秋

満月や齢重ねて見えるもの  
赤き実を道するべとす山路かな  
濃竜胆枯れ野に存在示しをり

冬

朝霧や峰々朱く浮かしをり  
風邪気味とは断りに良き言葉かな  
冬木立見上ぐる空の青さかな

後期高齢者ともなれば、今年の目標は？と聞かれて何と答えてよいか戸惑うものである。さて、私の今年の目標を何としよう…と思案した結果、やっぱり岩手山、岩手山しかないとなった。雪解けを待ちきれずに、どれくらい解けたかと試しに登ったら楽しかった。花がたくさん!!! それからが大変。登るたびに花の場所・種類、雪の解け具合、どんどん変わる。2～3日前と、1週間前とどう変わったか。それを観察するだけでも楽しい。まして、今までゆっくり見たこともなかった、木の芽が一斉にピンクになって目の前に広がった時には、別世界にいる心地がして声も出なかった。雨に濡れた薄い赤・濃い赤、黄葉・紅葉を透かして見る青空。雨の時、風の時、体調と相談しながらの登山道選択、トレーニング。山の楽しさを再発見した思いだった。寒さに弱い身には、せめて雪の降る前まではと、秋晴れの空の下、くっきり浮かぶ岩手山を眺めてはじっとしてられない。楽しい山の友人もできた。

この「山友」27号が出される時までには、はたして何回登れるだろうか？

## 花と山と

## 20年目の想い

No128 川村 雅子

山友会に入会して20数年になりました。今年は長年の願いが実現できた年でもありました。20年前の山行で千沼ヶ原に行ったときの事でした。葛根田から登り始めて間もなく、見事なツルリンドウが咲いていました。花と真っ赤な実が同じ蔓についていました。

まだデジカメラではなかったので、マニュアルのカメラを操作して撮る事はそれなりに時間も要したので、まだ新人の私には遠慮もあったので、その時は撮影はしませんでした。

翌年の同時期にあの時のツルリンドウ撮影の為に同じ場所を訪ねました。

ところが、登山道を広めたのか刈り払いがされており、目的は果たせずに戻ってきました。

それから毎年、いろいろな山でツルリンドウは見るのですが、花だけだったり、赤い実だけだったり、花と実が同時に付いた物には出会う事はありませんでした。一昨年の12月、里山山行があり、赤い実も終わりかけていましたが、たくさんのツルリンドウを見つけました。「これだ！」と胸の高鳴りを覚えたものでした。去年は9月末に行った所、やはり花は終わってしまっていました。

今年は8月末に行くと、まだ花だけ咲いてい



やっと会えましたね

ました。9月中旬、とうとう花と実をつけたツルリンドウに出会えました。今度は撮影の技術をあげて、感動できる写真が撮れたらと願っております。

羊蹄山 7月 メンバー 松田徹 武田秀雄 北田絹恵

ヒツジ年の私は「いつか羊蹄山に登りたい」と思っていました。年女の今年、とうとう願いが叶いました。きつい山の9合目で見た岩に咲くイワブクロに感動しました。



ブーケのようなイワブクロ



蝦夷富士ともいわれる羊蹄山

## 北アルプス 黒部五郎岳・薬師岳

9月      メンバー      松田徹      武田秀雄

昨年の同時期に岐阜の新穂高温泉から笠ヶ岳に登り、下山は鏡平山荘を通って戻ってきましたが、20年前に伊藤富枝さんと折立から新穂高温泉まで3泊4日の山行をした事を思い、懐かしんできました。今回は縦走ではありませんが、太郎平小屋を拠点にして黒部五郎岳と薬師岳の山行の機会を得る事が出来ました。富山の折立から5時間、やっと太郎平小屋に到着する。20年前も宿泊した小屋です。広場から見える、黒部五郎岳、薬師岳の雄大さに圧倒されました。

翌日10時間以上かかった黒部五郎岳の頂上に立てた喜びから、やっと太郎平小屋に戻ると、小屋に常駐して活動している富山県警の山岳パトロールの方からの話がありました。事故を無くす為の日常の努力の様子や登山道整備などでした。その話の中で「つらい山岳活動で、三俣山荘の伊藤さんから、ご苦労様です。と感謝の言葉をいただき、頑張る力が沸いてきます」と言った時に、三俣山荘や水晶小屋等を経営していた、伊藤正一さんの顔が浮かびました。その伊藤さんこそ勤労者山岳会を創設した方です。20年前の山行中の暑さの中で立ち寄り、水やトイレを快く貸してくれ、「労山の者です」と言うと、とても喜んでくれた事は忘れられませんでした。今は息子さんが経営されていると思いますが、謙虚な姿勢は受け継がれている事が予想できました。北アルプスから勤労者山岳会が誕生したと思うと、身の引き締まる思いもしました。薬師岳も水場あり、岩場ありで厳しかったですが、二日間天気にも恵まれて充実した山行が出来ました。同時期に折立から、新穂高温泉まで私達の3倍の山行を縦走した「日比野さん、熊谷さん、工藤さんは今はどこを歩いているのだろうか」と同じ雲の下の3人を絶えず思っていました。



黒部五郎岳



薬師岳山荘と薬師岳

# 今年のベスト5山行

234 古川 孝

還暦を過ぎて4年経った。今シーズンは去年にも増して充実した山行を経験できた。認知症になる前に、自分の山行記録を残しておこう。

## 【八幡平樹氷ツアー日帰りプラン】2015.2.21 メンバー木村(一)、藤本、山田、古川

数えてみたら山スキーを始めてから今年で14シーズン目であった。八幡平樹氷ツアーは毎年のように行きいろいろ思い出があるが、日帰りで行ったことはなかった。雪深い八幡平へは陵雲荘一泊が定番である。また、最近はおっぱら秋田側から入るが、以前は八幡平スキー場を基点としていた。スキーの先も出ない深雪に難渋したこともあったし、源太森の手前での雪洞泊りもあった。岩手側からのコースは熟知してはず？で、また是非行きたいと思っていた。それも日帰りで。

3人の強力メンバーを得て、4人で出発した。快晴、旧八幡平スキー場は急な登りから始まる。単独行の人と相前後して登った。先頭の私は絶好調で最初から飛ばした。大黒森ピークから黒谷地方面を眺める。このコースは本当に懐かしい。茶臼山荘から黒谷地に下り、源太森まで登る。何度この登りで苦労したか。初めてここに来た時は先輩がルートを迷い、後をついて行くだけの私はルートファインディングの必要性を強く感じたものだった。源太森到着、樹氷の向うに岩手山が鎮座する。陵雲荘方面の真っ白な世界が眩しい。快晴の大雪原に至る。素晴らしい世界が続く。昔ここでホワイトアウトも経験した。陵雲荘を経て頂上へ。頂上の櫓は建て替えされてわかりやすい。今日は天気も良いので、メガネ沼を経由して八幡沼の裏を通り、源太森に戻る。そこからさすがにへばってきた。朝頑張りすぎたツケが来た。なんとか茶臼山荘までたどり着く。ここから大滑走だ。茶臼岳からの滑走は初めてだった。以前は泊りの重いザックで滑るのは怖く、来た道を帰っていた。今日は日帰り装備、同一行動となった単独行の人が先導する形で滑り始める。ハッポー素晴らしい滑走となった。最後の急斜面、足が... だった。やはり疲れはピークだった。何とかだまして下り、快晴の樹氷ツアーを終えることができた。



## 【早池峰アイオン沢スキー】2015.3.28 メンバー木村(一)、山田、古川

早池峰山にスキーで登ろうと考えてから3年目、アイオン沢は3度目の挑戦だった。八幡平、岩手山で同行した木村、山田とチームを組んだ。川井の106号線から入って最後の民家で車を止め、そこから2時間半林道歩きだった。今回も私が先頭だったせいか、快晴の中またかなり快調に飛ばし、アイオン沢分岐までにかかなり汗をかいていた。分岐から沢筋を登り治山事業看板に出る。ここからがアイオン沢の急登、今日の核心部だ。前2回の反省から、コース取りを慎重に決め進む。急傾斜を何とか登り切り、やや傾斜が緩むが、ここから急に力が出なくなり、一人遅れ始めた。後で考えれば熱中症の症状だった。前2人に待ってもらい、最後はザックを途中でデポしてなんとか頂上までたどり着いた。うれしかった。3年越しの登頂がようやく実現した。下りは、頂上から少し下りたところでシールを取り、いよ

いよ滑走となった。正直この急傾斜の沢は私のスキー技術ではスイスイ滑られない。何とか事業看板まで下りて休止としたが、体がホッとしたせいか、嘔吐が襲ってきた。前に行った和賀岳の時と同じだった。あの時よりは軽く、吐いたら楽になり、その後の下り、林道歩きには支障がなかった。里に下りてくると、もう春だった。

#### 【和賀岳スキー】2015.4.4 メンバー藤本、山田、小泉、古川

和賀岳にはほろ苦い思い出がある。6年前の2009年4月に4人パーティーの泊山行をしたが、熱中症で私だけが和賀岳の頂上を踏めず、テントで寝ていた。その後も計画したが、果たせないままだった。今回、早めに出発すれば日帰りでも可能ではないかと相談し、5時御所湖集合とした。若い小泉がメンバーに加わってくれた。

5時40分には車止め地点から出発できた。1時間の林道歩きの後、登りにかかる。ザラメ雪を順調に登り、高下岳を見上げるところに着く。ここから急登だ。6年前にはここらあたりから熱中症の症状が出た。先週のアイオン沢の反省から、最初に頑張りすぎず、歩幅を狭くすることを心掛けた。幸いにも今日は私が先頭でなく、最後尾であった。高下岳頂上に着く。谷越えに和賀岳があり、そのはるか向こうに鳥海山がくっきり見える。北に目を転じれば、岩手山、秋田駒、森吉山、素晴らしい景観だ。だが、今日はここからが出発点だ。早速北の稜線を下りる。さらに稜線を歩くと大きな根菅岳が出てくる。これを登りきると間もなく根菅分岐だ。今回は県境の風からの要請で、和賀岳までの県境踏破も兼ねている。県境に入ってからコース一番の急登があり、これを必死の思いで登りきる。そこから和賀岳までは登り下りがある。最後登りで、6年前のメンバーでもある藤本さんから「古川さん先にどうぞ」と言われた。その気持ちがうれしかった。

#### 【県境の風コラボ 栗駒山&八幡平県境スキー山行】2015.4.12&4.25

##### メンバー小田、本間、府金、古川 サポート松田徹

県境の風から要請を受けて和賀岳を成功させた後、栗駒山から南側県境と八幡平頂上から北側県境へのスキーツアーを実行した。雪の状態、ルートの状態が全くわからない未知の世界への滑走は、冒険心をくすぐった。

4/12 栗駒山にはこの時期スキー山行で何度か登っている。この日は快晴、頂上直下はアイスバーンでエッジが利きにくくなり直登する。頂上からは鳥海山もきれいに見える。さあ、ここからだ。胸が高鳴る。頂上からの滑走、アイスバーンを必死にこらえて、転倒せずに下りて来て、いつもの右ではなく、左に進む。間もなくブッシュ(低木)にかかる。えーっ、こんなブッシュばかりでは先が思いやられる、と思ってさらに進むと、ブッシュ帯を抜け、素晴らしい大ゲレンデが出現する。トレースがあった。小屋の方面へのものだ。こちらは県境を進む。ルートファインディングも順調だ。更に進んでいく。事前に地図を見た中では一番の急傾斜の地点は直下に大きな割れ目があり、大きくトラバース。その後もゲレンデは続く。小さな沢が出てきた。渡ってから、あれおかし。ルートを外れた。あわてて県境ルートに戻る。その後傾斜はゆるくなり、気持ち良い樹林の中を滑る。最後雪が切れ、スキーを担ぐが、ほどなく道路に出て、サポート車に合流する。また来たいくらいのいいコースだった。

4/25 八幡平も快晴だった。既に前週からアスピーテラインが開通し、今回登りはあまりなく、下りが殆どであることから、鱗のあるクロカン型スキーにした。テレマークのスキー靴にスリーピン穴があり、そのまま使え、シールは持たなかった。頂上は2月にはスキーで乗った展望台に雪はなく、「八幡

平頂上」の標識で写真をとる。そこから 1604mピークまでは秋田側からの樹氷ツアーの通り道、そこから方向を北にとる。初めて滑る方向に広いゲレンデがあった。今日も先頭、風が気持ち良い。向うになだらかなピークがある。そのピークを越えると樹林帯の中のロングゲレンデだ。程良い傾斜に、方向を定めて滑る。なかなかこんなコースはない。次に出てきた急斜面は何とかおろる。また進むと、急な登りを避けて西側に回り込む。これが失敗だった。樹林が密になり、それでも進む。あれっ、雪が切れている。止むを得ずスキーを担ぐ。担いで木々の中を斜め上に進むのはしんどい。ようやくまた雪が出て



てきてスキーを履く。稜線に戻り平らな所で昼食とした。更に進むと、えっ、これはやばい。のぞいて見たら、到底滑り下りれない急傾斜だった。うーん、これはスキーを担いで後ろ向きに下りるしかない結論を出し、ゆっくり下りる。標高が下がってくると、雪が少なくなっている。稜線の西側は雪がなく、東側についている雪を何とか繋いで滑るが、所々雪がなく、その度にスキーを担ぐ。ピークを巻く道がある。誘惑に負けて下り気味の巻道を行くと程なく違うことがわ

かり、気を取り直して登り返す。今度はすっかり雪のないピークだ。スキーを担いでの藪漕ぎは堪えた。そこに咲いていた可憐なカタクリ。ルートファインディングを十二分に楽しませてもらい、ようやく寒の背峠でサポートに迎えてもらう。いや大変だったが、素晴らしい山行だった。

#### 【飯豊連峰縦走】2015.9. メンバー本間、鶴田、杉澤、古川

飯豊連峰縦走はまだ若かりし 12 年前の 7 月に行った。今回山行企画部会で提案され、私も手を挙げた。当初は大日杉から大日岳ピストンと思っていたが、メンバーの強い要望もあり、縦走となった。コースは 12 年前と全く同じ。今度は紅葉が楽しめる 9 月である。大日杉からの登りは前回難儀した思いがあったが、今回ゆっくりペースながら全員順調だった。前回はテント泊で、2 泊目は寝てたら雨水が流れ込んできた記憶があったが、今回は小屋泊まり。しかし、ちょうどシルバーウィークにあたり、小屋は混んでいた。予約のない 2 泊目の梅花皮小屋は定員をかなりオーバーしていた。1 日目は雨と虹で、2 日目は曇りのち晴れ、3 日目は快晴だった。紅葉は稜線の低木帯は素晴らしく色づいていた。1 2 年前に比べ経験は増したが、体力は落ちていることを自覚し、直前に受講したテーピング講座を早速実践した。前回は 3 日間とも雨模様であまり周りの景色が見られなかったが、今回は良かった。特に 3 日目は新潟市の市街地の向うの日本海に浮かぶ佐渡島を見ることができた。稜線は良かったが、丸森尾根の下りはきつかった。3 日間で 38km、24 時間、まだ歩けることに感謝である。

思いがけなく実現した山行に、提案した杉澤さんに感謝であった。また、川崎市在住の鶴田さんとも旧交を温めることができた。

#### 【おわりに】

今年は比較的充実した山歩きだった。特に冬場のスキー山行で永年の思いが果たせた。初めてスキーで姫神山に登り、姥倉の樹氷も見ることができた。妻と二人での山歩きも 3 年目となった。職場人たちや高校同級生とも楽しく山行ができた。

いよいよ来年からは自由になる。認知症になる前に思い出をたくさん作っておこう。多くの山の仲間とともに。



# 南アルプス 山小屋の旅

(千枚岳～悪沢岳～荒川中岳～赤石岳～聖岳)

(2015.7.24～7.27)

№305 山田 潔

7月下旬、アクセスの悪いと言われる南アルプス南部を歩いた。ハイシーズンにもかかわらず、山小屋の混雑は北アルプスの比ではなくゆったりしており、また山小屋がきれいな事と独自のおもてなしに感心した。入山の基点は榎島だが、自家用車ではその手前



榎島 登山口

の畑薙ダムまでしか入れない。また畑薙ダムへは静岡駅から3時間一日一便のバスしかない。7月24日畑薙ダムまで自家用車で行ったが、峠越えの一車線の山道で、途中猿に歓迎されて、畑薙ダム仮設駐車場に着く。そこから専用のバスで1時間かけてようやく登山口榎島に着く。バス代3000円支払うが、山小屋に宿泊すると、3000円戻ってくるシ

ステムだ。9:00 榎島ロッジに着くと、立派な宿泊施設、売店等があり、さすが南アルプス南部の拠点登山口であり、設備が整っていた。目指す千枚小屋は、標高2610mで、標高差1500mを6時間かけて歩く。ほとんど視界の開けない林の中でつらい登りが続いた。15:00 過ぎに千枚小屋につくと、建て替え後3年と



千枚小屋



のことでピカピカな小屋で正面に富士山が見え、ロケーションがよい。楽しみの夕食は、ハンバーグのケチャップ風ソースかけがメインで、春雨の酢の物、ポテサラにレタス・キャベツの生野菜、ヒジキ、かぼちゃのそぼろ添え等で、見かけも味も良い。スタッフによ



ハンバーグのケチャップソース

ると、山に入ると野菜が不足するので、この小屋ではできるだけ野菜料理を提供しているとの事。スタッフも若くてきび

きびした動きに好感が持てた。

25日、4時に起き、富士山と美しい日の出に10時間の長丁場での腰・膝のがんばりを期待する。1時間ほど歩くと千枚岳2880mに着き、ここから雲上の散策が始まる。晴天で景色はすこぶる良いが、足場が悪い。左右が切れ落ちており、足を滑らせば谷底に転落する可能性もある。富士山が

いつも見守ってしてくれる尾根歩きだ。悪沢岳（荒川東岳）3141mまでは一登、そして荒川小屋がはるか谷底に見えると、あそこまで下るのかと思うとがっかりである。荒川中岳を踏み、前岳へ向かう道と分かれ、急斜面を下り始めると次第に高山植物が多くなって来る。鹿の食害から守るためフェンスで覆われたお花畑を通過。シナノキンバイ、ハクサンイチゲ、クロユリが斜面を覆い尽くして黄色と白の饗宴である。沢を下り、新しい荒川小屋で腹こしらえをして本日のメイン赤石岳の登りに備える。大聖寺平を経由して小赤石岳 3081mへの道のりは長く、最後が険しい。富士山



を横目に見ながらゆっくり歩を進める。小赤石岳山頂から、赤石小屋に向かう道と分かれ赤石岳に登る。12時すぎ南アルプスの領主の赤石岳 3120mに着く。山頂からの眺めは相変わらず 360 度絶景である。青空で空気が澄んでおり伊豆半島の山々まで見える。目指す今日の宿泊地百聞洞山の家は、コースタイムでは 2 時間半の道のり。山頂からの下りは赤いチャートのガレ場で歩きにくい。標高差 500 mを一気に下り、だいぶ足にこたえる。15 :

00 百聞洞山の家に着く。ここは午後 4 時までには到着して手続きをすると、トンカツ定食が食べられることで有名な小屋。へりも降りない沢沿いのへんぴな小屋にトンカツを食べにくる登山者が集まるらしい。米は北海道の「ゆきひかり」とこだわり、夕食には揚げたてのトンカツを食べてもらうため、4~5 人ずつ呼ばれて食堂に着席する。トンカツの他にカレーと大根おろしとそばが付いた。ここでも満足の夕食が頂けた。両ひざにシップを施して寝た。



26 日、今日の行程は中森丸山、小兎岳、兎岳と 3 つの山を越えて聖岳を目指す。一旦山頂に上り詰めると、麓までズドンと下り、また麓から登り返しが 3 回も続いたため、精神的にも大変つらい。聖岳山頂に着いたのは 11 : 00 だった。眼前には赤石岳がどっしりと鎮座している。奥聖岳へ向かう途中、登山道

を我が物顔で歩く親雷鳥を発見。周りでは子供が遊んでいる。ほほえましい光景でいつまで見ても飽きない。聖岳に戻り光岳、茶臼岳、上河内岳を眺めながら昼食休憩とした。聖岳を後に下り始めるとザレ場の急降下でズルズル滑る。ストックを使ってのフルタイム 4DW でひざに負担を掛けないように慎重に下る。小聖岳まで下ると、森林限界で林に入りむっとして暑い。いよいよ下界に下るのだという実感がわいてきた。薊畑分岐が間もなくというところで、聖平小屋はまだですかという中高年の男性に出会った。こちらの道は聖岳に向かう道で、小屋に向かう道は薊畑分岐から下るはずだ。どうしても頓珍漢な叔父さんで、このような人が、山に登るのは危険だと思った。マルバダケフキの群落を過ぎると薊畑分岐でそこから下ると間もなく、聖平の木道に出た。木道を北進すると聖平小屋に着き、受付をすると、ウェルカムフルーツのサービスがあり癒された。大鍋にフルーツみつまめがどっさりおかれ、お玉で紙コップにすくっていただいた。疲れた体に甘いフルーツは染み渡り、ほっとした。夕食はイワナの甘露煮がメインで具たくさん



ウェルカムフルーツ



聖平小屋

のトン汁はうまかった。小屋は平屋で大広間にシェラフが畳んであった。27日 4:30の朝食では静岡名産のわさび漬けが出た。今日は下山日。下る一方と思いきや、聖沢沿いにつけられた登山道は、高巻もあり、細く、一方が沢に切れ落ちた気を抜けない道だった。ほとんどが林の中で展望はなく、直射日光を浴びることがなく登山口に着く。聖登山口から畑薙ダム仮設駐車場まで1時間バスに乗り、そこから車で白樺荘の温泉に向かった。ぬるぬるしたアルカリ泉質の温泉で体を労り、南アルプスファンになって山旅を終えた。



聖岳

だ。どうしても頓珍漢な叔父さんで、このような人が、山に登るのは危険だと思った。マルバダケフキの群落を過ぎると薊畑分岐でそこから下ると間もなく、聖平の木道に出た。木道を北進すると聖平小屋に着き、受付をすると、ウェルカムフルーツのサービスがあり癒された。大鍋にフルーツみつまめがどっさりおかれ、お玉で紙コップにすくっていただいた。疲れた体に甘いフルーツは染み渡り、ほっとした。夕食はイワナの甘露煮がメインで具たくさん

27日 4:30の朝食では静岡名産のわさび漬けが出た。今日は下山日。下る一方と思いきや、聖沢沿いにつけられた登山道は、高巻もあり、細く、一方が沢に切れ落ちた気を抜けない道だった。ほとんどが林の中で展望はなく、直射日光を浴びることがなく登山口に着く。聖登山口から畑薙ダム仮設駐車場



イワナの甘露煮

じゅうにつき

## 十二月の岩手山

No.294 松田希

### 1月 厳冬期初登頂～馬返しピストン～ メンバー（中軽米・幸久・希）

2012年、2013年と12月の連休は早池峰山に登った。昨年は12月に連休が無く、1月の連休に3人でどこかへ登ろうという話になった。早池峰は晴天も荒天も登頂したので、まだ一緒に登った事のない厳冬期の岩手山に決める。2日目アタックの予定が、先行者に助けられ一気に登頂。松田家はこれが厳冬期初登頂。これまで二人で何度か挑戦したが、猛ラッセルや悪天に阻まれてきた。今回もお鉢の風は強く、私達を脅かした。体力と素早い行動の大切さを痛感。小屋で海老の殻をむきながら食べたトムヤンクンのご褒美である。アプローチはスキーを選んだので、帰りの車道は30分と楽チン楽チン♪



1月 山頂



2月 お鉢

### 2月 山頂に拘る～馬返しピストン～

メンバー（藤本・橋本・中根・幸久・中村数・石澤・新田・希）

「厳冬期の岩手山の山頂に立ちたい。テントを背負って、飲み会はいらない。」と橋本さんからの電話。2か月連続で山頂に立てる程甘くはないだろうと思いつつ、参加する。飲み会はいらないと言われても、いろんな意味で強力メンバー。装備の酒をザックに分ける。この日も天気恵まれ、一気に山頂へ。お鉢は無風で天国のよう。（行った事はないが…。）8合小屋に戻り祝杯を挙げる。背負ってきてヨカッタ。翌日は一転、ホワイトアウト。前日のルートフラッグを追う。こんな時はGPSなど、まどろっこしい。命のフラッグである。

### 3月 3度目の正直～焼走りピストン～ メンバー（中軽米・幸久・希）

2013年4月1850mにて撤退、2014年4月外輪に抜けることは成功したが突風にて撤退。中さんが焼走りから登ってみたいとの事で、今年も挑戦する。第一噴出口を過ぎたところで、ストック・ワカンでデポしてピッケル・アイゼンに替える。そこから先は何もなく、誰もいない急斜面。それぞれのペースで思い思いに歩く。行く先は吸い込まれそうに見えるが、登っても登ってもなかなか近くはならない。2時間30分程歩いてやっと近づいた頂上を見上げると、一人の登山者が向こう側から姿を現す。思わず手を振り合う。ふたりが私に尋ねる。「知り合い?」「知らない。」と私。ずっと誰もいない所を必死で歩いてきて、人に会えたのが嬉しかったのだ。そして、3度目の正直で登れそうなことも…。



3月 焼走りの斜面



4月 登山口より振り返る

#### 4月 岩手山を駆け下りる～馬返しピストン～ メンバー（幸久・希）

昨年はクライミングばかりしていた。冬を前にして山歩きのトレーニングを始めた時、あまりにも歩けなくなっていて苦勞した。なので、今年は月に1回は夏も登山をしようとふたりで決めていた。1月2月3月と岩手山に登頂できたのだから、12ヶ月岩手山に登ろうということにしたのはこの頃だった。残雪のこの時期は、ラッセルもなく天気に恵まれれば、好きな所を歩けるので行動時間は案外短い。雪面に合わせてアイゼン・ワカン・ツボといろいろ楽しめる。今回は奥の宮付近の外輪から6合目指して真っすぐに下りた。さらに6合から改め所付近まで旧道と新道の間の沢を夢中になって駆け下りた。この時期だけのお楽しみだ。

#### 5月 岩手山に春が来た～御神坂ピストン～ メンバー（幸久・希）

下山でザレに泣かされるので、御神坂コースが苦手である。御神坂から登る度に「もう御神坂からは登らない！」と言っているが、何年かするとまた登ってしまう。今回も懲りずに御神坂から登ると言ったのは私だった。そんな私を歓迎するかのように登山道にはカタクリの花がたくさん咲いていて、踏まないように気を付けて歩く。うぐいすの声、この時期限定の大滝の音で耳も楽しい。岩手山でよく会うFさんと今日も会えた。不動平小屋の脇のベンチでお手製の干し柿を頂き、のんびりと山の話をする。今年はずでに18回岩手山に登り、山頂は6回踏んでいるとの事。凄い…。下山はやっぱり苦勞した。御神坂はしばらくお休みしよう。



5月 御苗代湖



6月 コマクサ

#### 6月 お花見山行～馬返し新道→不動平泊→焼走り～ メンバー（石川・中松・幸久・希）

今回はお花見山行ということで、このコースとなる。花の先生石川さんは、直前に中松さんの結婚情報をスクープしていた。登り始めて少しすると登山道脇に2輪の花が寄り添って咲いていた。

「このお花は中松さんと誰かしら、フフフ」と花の先生は早速ジャブを入れる。例年より花の時期が早く、思っていたより花が少なかったが、先生の解説を聞きながら小屋まで楽しむ。松田家は軽量化しない山行では snow peak の『ほおずき』というランタンを愛用している。暖か味のある電球色と明るさを無段階に調節出来るところがお気に入りだ。今夜も貸し切りの小屋で柔らかな光の下、嬉しい話題で盛り上がる。乾杯!!

## 7月 山日和～上坊コースピストン～ メンバー（幸久・希）

1月から6月まで山頂を踏んだ。1年の半分である。この頃から月の上旬に登ってしまいたいと思うようになる。7月の上旬は暑かった。こういう時は上坊コースに限る。岩手山7コースの中で私が一番好きなコースだ。晴天続きだったのでツルハシまでの樹林帯に湿気がなく、日差しを避けながら静かな森を快適に登れた。ツルハシに出ると大通のような人通り。山頂もたくさんの人で賑わい、周りは360度見渡せた。珍しく山頂でゆっくり昼食。ゴロンと寝転んで青い空を見ながら、同じ場所とは思えない冬の山頂を思い出していた。



7月 早池峰山が見えた



8月 七滝コース

## 8月 歩いたことのないルート～七滝→お花畑→平笠経由山頂→上坊～ メンバー（幸久・希）

月に1回の岩手山登山に遊び心がでてきた。岩手山は7コースすべてから登ったことはあるが、歩き残している区間があった。お釜湖から平笠の小屋の間である。いつかは歩いてみたいと思っていたのでこの機会にルートに入れることにした。道が不明瞭なのではないかと心配していたが、草がかぶっているところはあるものの所々赤布もあり、迷うことはなかった。展望はほとんどなく、淋しいルートだ。マイナーなルートになっているのが分かる気がする。平笠側からお鉢にでた途端、不動平から登ってきた山友会のお姉様達とバッタリ。山頂までのひとときご一緒する。歩くペースや休憩の時間が少し違えば会うことがなかったと思うと、山の偶然はスゴイと思う。

## 9月 雨・雨・雨 ～網張→鬼ヶ城→山頂→お花畑→網張～ メンバー（幸久・希）

9月の岩手山は創立記念山行と決めていたが、雨で4合目までとなった。翌週リベンジで計画するも予報はイマイチ。行ける所まで行ってみようと網張のリフト乗り場へ行くと、他山岳会の大先輩Nさんと久しぶりに会う。8合小屋に用事があるとの事で、結局9合～山頂以外は下山までご一緒する。鬼ヶ城の紅葉を楽しみながら歩いていると、予報どおりの雨が降り出し、結局下山まで降り続く。Nさんのペース取りとコンパクトな休憩のおかげで、雨の中をスムーズに歩く事ができた。レインギアと雨の中での行動について考えさせられた登山であった。



9月 雨を避けてお花畑へ



10月 雪だるま

## 10月 ロングルートで岩手山～安比高原→八幡平→三ツ石→岩手山山頂→焼走り～

メンバー (N・幸久・希)

月1回の岩手山登山のおかげで今年は歩けるので、3連休に50kmトレイルに挑戦する。安比高原ブナの駅を出発し、安比岳経由1日目の夜は陵雲荘泊。大深山荘まで行ってもよいところだが、この夜陵雲荘で楽しい集まりがある。山仲間のKさんとNさんの百名山達成のお祝いをするのだ。Nさんは直前に私達と同行することになり、石川さん、三さん、久保さん、英里子さん、Kさんとは陵雲荘で待ち合わせをする。皆で集まるのは1年ぶりとか…。今夜のご馳走は百名山ケーキにサラダ山、はらこ飯に芋の子汁。皆の優しい想いが秘められたお祝い会だった。

翌朝、ガスに包まれた陵雲荘を皆に見送られて出発。途中から雨が降り出すが三ツ石山荘まで予定より早く進む。もう少し先まで行くと3日目が楽なのだが丁度いい所に小屋が無い。三ツ石山荘ではそれぞれ昼寝や読書をしてゆっくり過ごす。物凄い風と雨が降ってきて明け方まで続く。

4時起床。雨は止んでいて昨日より風も弱まっていた。今日は一番の長丁場。ヘッドンをつけて出発する。しかし網張リフト上に着く頃にはまたもや雨。鬼ヶ城では次第に雪交じりとなる。山頂では可愛い雪だるまが迎えてくれた。9月の岩手山も雨だった。10月の雨は9月の雨とは違う。秋から冬へと移る時期、装備と行動判断が自分を守ると実感する。

百名山を歩いたNさんは正に百戦錬磨、悪天候の中の早いリードに助けられる。今回の50kmトレイル、悪天候を理由に八幡平、畚、黒倉等々の山頂に寄らずに歩いたので、歩行距離は50kmに届かず47kmだった。しかし、大満足の山行だった。

## 10か月を終えて…

何気なく始めた毎月岩手山登山。岩手山は四季の移ろい、花や虫、虹やブロッケン現象までも見せてくれ、山の怖さや自分の弱さも気づかせてくれた。そして、一緒に歩いてくれる仲間や山で偶然出会う人達が、私達の思い出に彩りを添える。何より、こうして毎月登れる自分達の健康と家族が元気であること、山が穏やかであることに感謝である。

さて、来年はどこに登ろうか…。(その前に11月と12月の岩手山が待っている!?)

# 礼 文 岳

千田 勝則

さいはての島、礼文島、最高峰の礼文岳 490m、会員の K さんから礼文岳に登りたいの  
で行きませんかと話しがあり、O さんを誘い、列車を 3 乗りつぎ稚内港からフェリーで礼  
文島着、20 時間の旅でした。

レンタカーを借りる次の日、内路登山口の駐車場に車を駐車し、用を足し、奥から登り  
始めつづら折りの道で高度をある程度かせぐ。海を背後に登る気分は格別である。ハクサ  
ン千鳥が多い中に見つけました斑入りのハクサン千鳥。少し歩くと白花ノビネ千鳥が…。  
コースはその後なだらかで、広い尾根上を両側がウルシの道を歩く。ダケカンバとトドマ  
ツの樹林を縫うようにのびて、トド松の林を抜けると起登臼コースの分岐に合流（現在は  
通行禁止）分岐からも周囲は見られない。チシマザサ斜面にトドマツとダケカンバなど見  
るだけである。あまり展望のなかった小さなピークを過ぎると目指す礼文岳が正面に見え  
はじめる。晴れていれば、利尻山とサハリンが見られるが、今日は曇りである。ササとダ  
ケカンバの道を歩き、山頂手前のピークは岩が露出し展望台としては素晴らしい。最後の  
登りはやはり最高峰らしく、ほどほどの斜度である。ハイマツ側面には、ゴゼンタチバナ、  
コケモモ、ガンコウラン、カラフトイチャクソウなどの花が見られる。山頂は広く全体に  
裸地状となっており、ササ原の眺めと礼文島北半分の海岸の眺めがすばらしい。下山は長  
く感じられる。

下山後はレブンアツモリソウの群生地に寄り、サクラソウモドキを見、澄海岬のみやげ  
& 食堂で昼食とする。高山植物園に寄る。ほとんどの花が見られる。桃岩でレブンコザク  
ラ見せたかったが咲き終わっていた。最後は私が見たかった映画「北のカナリア」のロケ  
地を見学して一日が終わりました。

次の日西海岸 6 時間コースを歩いて来ました。花はミヤマオダマキ、チシマゲンゲ、ハク  
サンチドリ、オオバナノエンレイソウなどが見られました。



## 山での出会い

456 中松 明久

山小屋で働いていた 24～25 歳の頃、たくさんの人との出会いと別れがあった。その中から印象が大きかった二つの出会いを紹介したいと思う。

僕が働いていた八ヶ岳の本沢温泉（ほんざわと読む）は岩稜の南八ヶ岳と森林の北八ヶ岳の中間に位置し、稜線ではないため通年営業している。稜線の夏沢峠までは 1 時間で登れ、北にも南にも行けるため冬でも週末は登山者で賑わう。

1 年目の厳冬期、「冬の北八ツを歩く」みたいな企画でテレビ撮影隊がきた。出演は『藤岡弘、』。しらびそ小屋まで迎えに行き、そこで一緒に食事をし、隣で寝た。飲んだお酒はワイン一杯だけ。仮面ライダーの印象そのままの人だった。翌日はしらびそ小屋から本沢温泉まで撮影しながら歩く。僕はカメラに映らないように機材持ち。氷点下 25℃の朝だったが、途中で雪に小豆と練乳をかけて美味しい！の演出。役者魂をみた。小屋が近づくと僕は先回りしてお出迎え。全国放送だったので僕もちょこっとだけテレビに出演した。

二つ目は 2 年目の晩秋の話。2 年目は忙しい時だけ小屋を手伝ってそれ以外はフラフラしていた。甲斐駒ヶ岳に登りたいと思い、広河原から北沢峠までのバスに乗った。バスを降りると初老の男性に登山は初めてなので一緒に登って欲しいと頼まれた。無下に断ることもできず、一緒に登り始めたがあまりのスローペースに当惑した。晩秋で日没も早いので、「1 時までには登頂できなければ諦めて下さい」と言い、山頂まで行きたい僕は一人先を急いだ。先に登頂した僕は景色を堪能した後、来た道を見下ろすと男性が登ってくるのが見える。ここまで登ってきて下りましようと言うのは残酷だと思い、待つことにしたが下山を考えると絶望的な気分になった。下りも遅々としてペースはあがらず、当たりは真っ暗。一つだけしかないヘッドライトでなんとか北沢峠へ。しかし更なる悲劇が僕を襲う。

なんとバスがないので男性は帰る手段がないのだ。仕方がないのでテントに泊まってもらうことにし、食事とシュラフまで提供した。が、僕はシュラフカバーだけで寒くて眠られない。閉まっている小屋の扉が開いたので積んである毛布に包まって寝た。

その男性はお礼がしたいと言い、山を下りたら遊びにおいでと住所を教えてくれた。富士山のふもとだったので楽しそうだなと思い暇な僕は遊びに行った。再び悲劇が待っていることも知らずに。

美味しい蕎麦やすき焼きを振舞ってくれた男性は今度は鳳凰三山に登り

朝日を撮りたいので付き合っ欲しいとの申し出。食事をご馳走された僕は快諾し夜叉神峠から1泊の計画をたてた。持ってくれと頼まれたのは立派な三脚。小屋泊まりだからいいやと思ったが、肩にずっしりと重かった。雪も降った寒い朝、早出して朝日が見える場所を目指す。

男性は荷物を軽くしたいからと、お腹が空くから朝食を持って行こうという僕の忠告も聞かずにカメラだけ持って出発。案の定、朝日を撮り終えたあと動けなくなり僕は小屋まで往復。下山は恒例の暗闇歩きを楽しんだ。若かった僕はすっかり振り回された感じだが大変だった記憶も今はいい思い出。

盛岡山友会に入ってたくさんの人と出会った。山への想いは人それぞれだろうけど、山が好きな気持ちがたくさん伝わってきて、僕も今まで以上に山が好きになった気がする。

一人で登る山もいいが、仲間と登る山は人生の宝物だと思う。

これからも山での出会い、そして山との出会いを楽しみにしている。



# アメリカ・グランドキャニオンを走る

G2G 274 km 完走の記録

2015年10月 橋本 久

「登山を止めたの？」と聞かれる。

最近の記録・報告がほとんどウルトラマラソンやトレイルランばかりなので、そう言われても当然だと思う。自分としてはそんなつもりはないが、確かに8000m峰（マカルー遠征）から7年も経過しているし、岩登りやアイスクライミングも熱心にやってないので、マラソンに転向したと思われるかもしれない。今回の報告も、登山ではないが現在の体力・精神力でできる、最大の限界への挑戦記録である。

舞台はアメリカ・グランドキャニオン周辺の砂漠地帯。274 kmを7つのステージ（7日間）に分けてくりひろげられた。世界中から143人が参加し91名完走した。私は44時間57分で完走し、全体で14位、60歳代で優勝した。

42.195 km以上のマラソンをウルトラマラソンといい、トレイルランは山岳地帯を走るマラソンのことで、ウルトラ・トレイル・マラソンとは42.195 km以上の山岳レースである。そんな過酷なレースになぜ山屋が夢中になってしまったのか。

過去、死に至る遭難事故を4回経験している。その1. 前穂高正面3峰を目指しているアプローチで仲間の落とした落石で大怪我し右目を消失している。そのときの骨折箇所の鼻骨に今だに針金が入っている。その2. アコンカグアのキャンプ1で夜中無呼吸状態になり担ぎ降ろされ九死に一生をえている。その3. 谷川岳で土石流の雪崩で仲間が頭蓋骨骨折の重傷。パーティー3人は奇跡的に救出される。その4. ブロードピークのルート工作中雪崩に埋まる。辛くも脱出しキャンプ3に戻るとテントが雪崩に流され跡形もなくなっていた。高所登山ではかぎりなく死の可能性が近くなることを実感する。

ウルトラマラソン参加のきっかけは会員の大林さんの誘いから始まり、砂漠などの過酷なトレイルランは岩手県出身の飯田徳子さんという当時73才の女性を新聞紙上で知ったことから広がる。ほとんど死から無縁の肉体の中にある可能性への挑戦である。

これまで8000m峰に6回挑戦し、3座に登頂できた。7大陸最高峰も登れた。その他世界中の6~7000mにも10回以上挑戦している。30年間一生懸命努力し、やっと登ってきた。しかし、ほとんどがシェルパ、ポーター、ガイドの助けを借りて登っている。山野井泰史さんや竹内さん（8000m峰全座登頂）や栗城さん（エヴェレスト無酸素で4回挑戦中）など、一

流の登山家の登り方に比べ、あまりに登山家としてのレベルが低いと言わざるをえない。

人間にはそれぞれ限界がある。努力だけで解決できない限界がある。平らな道路を走ってもあまり速くはないが、荷物を背負ってなら、平地でも山を登ったりしても、そこそこの結果を今でも出せる。

サハラ砂漠やアタカマ砂漠、さらに今回のグランドキャニオンは山あり谷あり砂漠ありの何でもありのレースである。水以外の7日分の食料と寝袋、マット、着替えなど約10キロを背負って走り始める（初日が一番重い）。登山で培った知識・技術・体力が存分に生かせる。これまでの30年の経験が生かせる。面白いように若い人とも対等に走れる。ここで、とことん体力も精神力も鍛えれば、最大の挑戦課題である70才で8000m峰も少しは可能性が見えてくる。

ヒマラヤ登山で痛感した、生きて帰るための絶対条件は12時間でも20時間でも耐える体力が必要であること。限界まで自分を追い込んでではじめてわかった自分の未熟さ。本や他人の言葉を切り売りして、自分の言葉のように思ってきた自分。本当の自分の言葉は、実際経験したことの中でしか生まれられない事実があること。あまりに他人の評価を気にしすぎて来た生き方これまでの自分。遭難事故は自らの中にすべての要因があること。岩登りでも、たまたま登れたことや誤魔化しで登れたことが実力と評価されていたこと。

ある時、このままでは当然の結果として山で遭難すると察知した。精神的にも非常に弱い人間であることを正直に認め、素直に生きようと決めた。目指すは本物の自立した人間。そのために登山を続けようとしてきた。年齢を言い訳にはしてはいけない。徹底して自分を鍛えるしかない。本物の強い人間になるしかない。

本物の強い登山者になるため、山友会の例会にほとんど出たことがない。毎日午前3時半起床、その後2時間のトレーニング。夜は8時に寝ないと体が持たない。夜のトレーニングがある日は仕事から帰って1時間も自由時間がない。申し訳ないが例会は休ませてもらう。

砂漠のマラソンでは過去2回60歳代で2位が続いた。やっと念願の1位をとることができたがあまり感激してない。世界にはたくさんの強い60歳代や女性がいることを知っている。今回も55才のオーストラリアの女性に2時間遅れた。レース中何回か一緒に走ることもあったが、強い。砂では走れないで歩くときのスピードも速かった。75才のアメリカのハンスさんも完走した。挑戦するだけでも凄いのに、上位に食い込んでいる。62才から走っているそうであるが体がとても75才に見えなかった。

まとめ

限界に挑戦するのが私の生き方。限界を目指している人に興味がある。

長生きだけの人生など興味はない。新しい友人も増えたが、去っていった友人もいる。応援してくれる人も少なくなった。「あかげら」で真摯に登山を目指している、目指そうとしている人の文章に感動を覚える。

40年前、登山が盛んな頃、小西政継さんや山学同志会にあこがれて高峰や岩壁を求めて生きてきた人間としては、登山ではそろそろ引退の時が来たと思うこともある。しかし、登山で、あまりにも多くのことを経験した。多くの登山愛好者をみてきた。そして多くの真摯に登山を目指していた友を亡くした。大学の後輩塩屋、チョモランマの矢野、パミールキャンプの東条。

4日目の84kmのロングステージでは夜中の1時ころ砂漠の中を一人で歩いていた。前にも後ろにもランナーは見えない。体力の限界を超え、長い時間一人きりで行動していると、幻聴のようなものが聞こえてくる。人の声が近くしたような気がするが、だれもいない。ヘッドライトを消しても月明りで遠くまでルートが見渡せた。何も考えず、ただひたすら砂の中でもがきながら進んだ。これでもか、これでもかと限りなく砂山が現れ、登り下りを繰り返す。それが終わったと思ったら、深い砂の道がさらに延々と続く。同じところをぐるぐる回っているような錯覚状態は1時間近くも続いた。

やっとチェックポイントが近づき、明かりが見え、人の声が聞こえるようになった。何もなかったがただそれだけでうれしかった。人間、限界を超えると、通常の生活では考えられないものに非常な喜びを感じるようになる。人の存在そのものが喜びになる。

そして、17時間30分かかってで4日目のステージは終わった。何も考えることができないまま、仲間が来るまで眠って待つ。5日目、6日目のステージでまだ100キロ以上砂漠・サバナの走りが残っている。残りの距離の苦労を考えるよりも、自分の可能性が広がった喜びを感じながら、とことん苦しんでみよう。そう思えたら、楽になった。何も考えず、ひたすら走るだけで幸せだ。

何を求めて生きるのか。何もないだろう。それが人生だろう。

それならば、夢中になれるものをしよう。

人、それぞれ喜びを感じる対象が違う。それぞれの人生を尊重しよう。

私は、とことん走り、とことん登り続ける。幸せで生きるために。



今回も新しい発見があり、新しい友ができた。たった1週間で、一生付き合えるともができた。凝縮された時間に生きた人間に対する褒美だと思う。来年も新たな挑戦を計画している。

人生が楽しくてしょうがない。

# マッターホルンへの道のり

No.443 河合 秀樹

この夏、憧れのマッターホルンに無事登頂しましたので報告します。(報告書も併せてご覧ください)

## ○マッターホルンについて

標高 4478m、スイス第 3 位の高峰で、山頂は平地の 58%位の酸素濃度。山頂からは 4つの稜線が伸びており、それぞれ登攀ルートとなっています。スイス側から登る初登頂ルートのヘルンリ稜が一番メジャー、イタリア側のリオン稜もよく登られています。他にツムット稜、フルッケン稜があり、順に難しくなっていきます。ヘルンリ稜とリオン稜は固定ロープがありますが、それ以外にはありません。フルッケン稜はV+やVIのピッチが出てきます。4つの稜線に挟まれた4つの壁も全て登攀されています。特に有名な北壁は初登攀ルートである Schmid ルートでもIV~Vのアイスとドライのピッチが出てきて、基本はアイスクライミング。道具と技術の進化した現在では北壁でもビバークせず1日で山頂まで登攀するのが一般的で、世界記録は今年更新されてなんと1時間50分とか・・・



ヘルンリ稜下部からのマッターホルン

さて、憧れのマッターホルン、何とか登ってみたい。今の私の登攀能力で行けるのはヘルンリ稜かリオン稜。やはり見た目にかっこいい初登頂ルートのヘルンリ稜を登りたい！ということで、ここからはヘルンリ稜の話です。ヘルンリ稜の末端は登山道。標高 3260m のヘルンリ小屋まではハイキングに慣れていれば誰でも行くことができます。登攀になるのは小屋から5分ほど登った取付きからで、山頂までは標高差 1200m の岩登り。とは言ってもビッグウォールのようにずっと垂直に近い傾斜が続くわけではなく、大半は両手両足を使えば普通に登れるセクション(II級以下)です。途中 4003m にソルベイ小屋という避難小屋がありますが、ヘルンリ稜を登攀する人は基本使ってはいけないルールになっています(緊急または北壁登攀者用)。登山道は初め東壁側を登り、ソルベイ小屋を越えて少ししてから稜線に出て最後は北壁側の雪田を登ることになります。ソルベイ小屋前後にIII~程度のピッチが出てくる他、頂上雪田手前に険しい岩稜が出てきます。この岩稜はフィックスロープが張っており、使わないとIV+程度あるようです。

つまり、ヘルンリ稜は見た目よりは意外と山歩きの要素が強いです。この点からは意外と広く門戸の開かれた山で、登攀エキスパートのみの世界というわけでは決してないと思います。とは言っても、岩登りの経験のない人が登るのは不可能ですし、足の方の体力も必須です。特に今回私が行ったガイド登山では、かなりのスピードも要求されます。

## ○マッターホルンに登るまで、日本での準備

トライ可能な技術と体力ついてきたかな、ということで計画を始動させたのが今年の12月頃。休みが取れてトライできる時期はお盆なので、それまでにマッターホルンに適した体を作り上げよう！と思いましたが、結局特別なトレーニングはせず、登山時は早歩きで休憩を2時間に1回くらいにした位でした。普段の登山やクライミングがトレーニングになると期待したのです。出国までに登った山・岩は、1月：八ヶ岳(アイス他)、2月：鶏頭山、姫神山、層雲峡(アイス)3月：早池峰縦走、4月：三崎(フリー)、岩館(ボルダー)、鎌倉山(マルチ)、5月：猿岩(本チャン)、鳥海山、鎌倉山(マルチ)、山寺(フリー)、黒伏山南壁(本チャン)、(下旬に腰をグキって活動休止)、6月：森吉山、太平山、黒伏山南壁(本チャン)、7月：三崎(フリー)、(上旬に腰を激しくグキりその後活動不能)→出国。1~6月

は平日夜に人工壁を週1で登り、5.11cまでリードしました。とにかく問題は直前に仕事でグッキリしてしまった腰。腰は結局完治せず、一ヶ月以上登山クライミング一切お休み状態で弱った状態での出国となってしまいました。無理せず現地での腰や体力の状態次第ではアタックを諦めることにしました。

## ○現地レポート

8月6日

仕事から定時に逃亡し、神奈川の実家へ向かいました。

8月7日

成田朝発の直行便でチューリッヒへ。チューリッヒからは電車を乗り継ぎツェルマットへ。事故遅延で乗っていた電車から途中で下ろされてしまいましたが、同じくマッターホルン登山予定の日本人の助けもあり、何とか行きました。ツェルマットまで一

人旅のはずでしたが、その日本人の方と、途中駅のカフェで一服しながらのまったり旅となりました。(私こんなキャラじゃない?)「旅は道連れ世は情け」の楽しいアプローチでした。

8月8日

若干時差ボケ感がありましたが、ブライトホルン4164mに登って高度順応です。朝アルパインセンターでガイド予約の手続きをする必要があり、スタートが10:30と遅くなりました。この日、午後は天気は崩れる予報なので急いで登山です。腰は本調子ではないものの、都合の良いことに回復傾向。登山口が既に3800mと富士山より高く、明らかに空気が薄い!

ゼーハー言いながら登頂。初の4000m峰登頂!下山は中央峰方面に縦走を開始。稜線が細くなってきたので、アイゼンを履きました。ヤバそうな雲が湧いてきたのと、行く手に明らかにクレバスがいくつも視認できたので、一つ小さなクレバスを横断して途中からエスケープ。その後天気は激しく崩れ、雹まで降ってきて標高3800mのヨーロッパ最高地点の展望台は早々に閉鎖されました。マッターホルンではこの悪天候に捕まり、日本人2名が亡くなってしまいました。夜にはスイス在住の大学先輩、Tさんとキャンプ場で合流。再会を祝って宴会でした。この後マッターホルンのアタック以外Tさんと行動を共にしました。

8月9日

悪天の予報だったので、オーバーロートホルン3412mにハイキングのつもりで出発しましたが、雨が止まず、展望台のベンチに腰かけたり、室内でコーヒー飲んでいるうちに午前が終わりました。午後に小雨となりましたが登頂する気が失せ、ロートホルンからスネガまで標高差900mを下りてエーデルワイスなど高山植物を堪能しました。山上は秋の装い、時々日が差して、雲上の天国でした。



ブライトホルン。海坊主のよう



ブライトホルン山頂東側の稜線



エーデルワイス

8月10日

この日も悪天の予報だったので、ゴルナーグラート 3090m まで登山電車に乗り、軽いハイキングの予定でした。結局午前中は悪天候で建物内で暇潰しするほかなく、午後になっても小雨が止まなかったので1駅分 40 分くらい歩いてさっさと下山しました。モンテローザの山頂を間近に望むことは叶わず。

下山したら天気が回復してきたので、ツェルマットから歩いてすぐのはずのフリークライミング



ツェルマットのフリークライミングエリア

エリアに行きました。しかし迷って 15 分どころか 1 時間かかり、取付に着いたら既に 16:00。それから 3 時間くらいで 4 本登りました。5.10b でテンション入り、グレードは辛めの印象。思わず意地になり、アタック当日まで残る激しい筋肉痛となりました。腰も痛み上がりだということのに、私は一体何をしているのだろうか？

8月11日

この日は天候が久々に回復。Tさんと2人でマッターホルン登山の試験です。試験会場はブライトホルンハーフトラバースルート、面白いとの前評判でワクワク。

前日までの悪天候でルートにべったり雪がついて、ガイドのコンスタンツさんからは「ルートの状況次第でポルックス 4092m に変更する」と言われましたが、結局ブライトホルンになりました。

最初は平原クレバスゾーンを通過、クレバスをスノーブリッジ使ってそ〜っと渡り、傾斜 40° 程度の雪面をアイゼンで登ります。ガイドは結構飛ばしますがまだまだ許容範囲。私より体力なるはずの Tさんは高度順応が不十分のためか早くも遅れ始め、不合格を宣告されてしまいました。「なぜ登れないっ(怒)」、「ここから帰りなさい(怒怒!!)」、など叱咤がバシバシ飛びました。頻出フレーズ「Why NOT!!!」スイスのガイドは厳しいです。私はといえば、急な雪面をガイドさんと Tさんの深いトレースを嫌って一歩横にズレて登ってたら「なぜ俺のトレースを使わんのだ！(怒)」



クレバスを避けつつ雪原を進む

雪の急斜面を越えると、お待ちかねの岩稜ゾーンです。普段は登山靴登攀のようですが、今回は雪べったりなので全行程アイゼン登攀。順番はラストなのでまったりついていきました。スタカットで通過の部分も結構あり。ナイフリッジや、IV級程度のフェース、小ピナクル直登など変化に富んでいて楽しい！期待を裏切らないルートでした。正直に言って、ヘルンリ稜より登攀としては面白かったです。岩稜は2時間位で終わり、中央峰と思われるピークに着きました。残りは簡単な雪稜歩き



ハーフトラバース開始



です。河「合格っすか？」ガイド「まだテストは終わってないぜ(=ㄹ)」でも、ガイドがアルパインセンターに電話していたので盗み聞きすると「あいつはノープロブレムだ」と。よかった～

ガイドは雪稜に入ってから猛烈なギアチャージ。すごいスピードで登り始めました。結構息が切れたところで2度目の山頂です。がっちり握手。ガイド「ちょっとは疲れたろ？」河「まあまあっすね」ガイド「そうか(=ㄹ)」河「(ﾌﾟﾝ寒気)」

下山は後ろから確保されるので私から降ります。雪が腐っていてアイゼン要らないと思って、「脱がないんすか」と聞いたたら、「何で脱ぐんじゃ(怒)」。ガイドは真面目です(当たり前)。はじめは結構なペースで下りましたが平原に入ってチンタラペースにしたら、アイゼンを脱ぐ時にガイドに先頭を奪われました。そこから、このスイス山行で一番きつい 30 分間が始まりました。ガイドが何十人も、他のガイドパーティまとめて超ゴボウ抜きを始めたのです。もう完全に走ってま

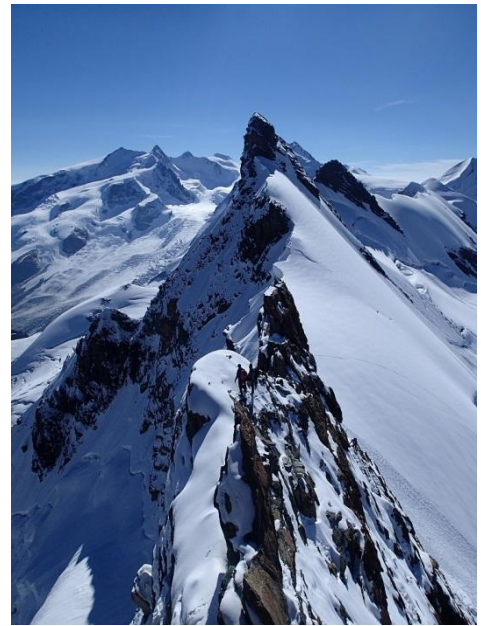
すよね！？ここ、標高 3,800m なんですけど・・・富士山日帰りお鉢回りランニングで頭痛を起こした忌まわしき過去を思い出しました。ゲロゲロになりながら 30 分を耐えきり、駅に戻ってきました。ガイド「結構疲れたろ？」河「いやマジで疲れたっす」ガイド「ふふっそうか(=ㄹ)」(この人絶対いじめっ子だ・・・)ガイド「お前は合格だから、マッターホルン登頂の予約取りな」と言い、Tさんに今後のトレーニングのアドバイスをして颯爽と去っていきました。敬意と恐怖をこめて、「鬼教官」と命名。スイスガイドのスピードは早いという噂は真実であることがよくわかった一日でした。

8月12日

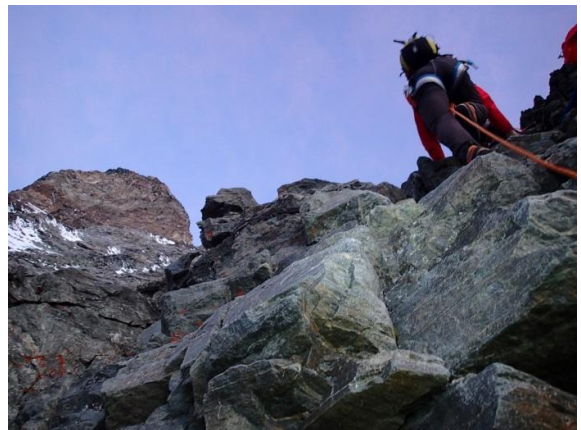
無事ガイドの予約が取れ、天気も大丈夫そうなので、午前中は休養し午後からヘルンリ小屋入り。快晴の中まったりヘルンリ小屋まで2時間、標高差700m 強のハイキングです。途中、本日登頂に成功し下山していた日本人から話を聞いたところ、コンディションは悪くないとのこと。これは行けるかも！？小屋は新築ピカピカでとっても快適でした。夕方になってごったがえす食堂で自分のガイドを頑張って探しだし、一緒に食事です。密かに「鬼教官」コンスタンツさんを期待(恐怖)していたのですが、ニルスさんという別の方でした。ガイド業を初めて4年くらいの若手で、マッターホルン北壁も去年登ったとか。食後は荷物チェックを受け、持っていく予定だったピッケルも置いていくことになりました。後で思えばゴネて持っていけばよかったです。8時半には就寝。

8月13日

朝、4時にはフル装備で朝飯に来るように、との指令を受け、3時半起きです。パンやハム、自前で持ってきたバナナを流し込み、4時15分、一斉にヨーイドン！みんな殺気立ってます。取付で待たされ、4時25分登攀開始。予想通りかなりのスピードかつノンストップです。休憩は一回衣類調整が入っただけでした。暗くて道もよくわからないので、ガイドにひたすらついていくうちに、東壁側で夜が明けてきました。絶景を堪能したいところですが、本日も午後から悪天候の予報。しかもソルベ



ハーフトラバースのナイフリッジ

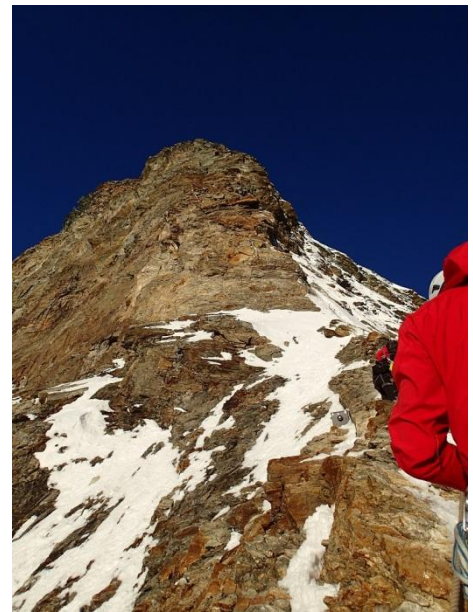


東壁側からソルベ小屋目指して登る

小屋まで 2 時間半切らないと登山中止になってしまうので、どうしても急ぎ足になります。

途中、下モズレイスラブだけスタカット、ソルベイ小屋に 6:07 到着。1 時間 42 分と、予定していた 2 時間より早いペースで、これなら山頂に行けそう。ガイドは休まずそのまま上モズレイスラブに取付きました。スタカットなのでガイドの登攀中にしばし休息。傾斜が急になってきたと思ったら、稜線のショルダー(肩)に出ました。雪がついているのでここからアイゼン登攀です。(わざと)ゆっくりアイゼンを履いて休みました。

ここからは転落するとアウトな細い稜線から、フィックスロープの岩稜帯の通過です。岩稜帯はスタカットで上から確保され、しかもロープゴボウ登りができるので、脚力より腕力の方が自信のある私には楽でした。でも疲労も感じ始め、油断大敵。フィックス帯を抜ければ、登りは簡単な傾斜 35° 程度の北壁雪田です。でも、ここでついに体が悲鳴を上げ始めました。ペースが出ません。ガイドはグイグイ引いてきます。河「ヨレたっす。弱くてすんません。(もう山頂も近いんだし休ませてくれよ〜)」ガイド「大丈夫だ。ゆっくりでいいから止まるな(さっさと山頂行くぞコラ)」やっぱりガイドは厳しい。ゆっくり登っていったら、有名なマリア像の下に、既に登頂を終えた日本人とガイドのパーティが。なんと 3 時間切ったとか！山頂まで後ほんの少しとの激励を受け、最後のリッジを進み、もう 1 パーティの日本人+ガイドのパーティとすれ違い、雪稜の山頂に 7:40 登頂！ガイドとがっちり握手です。360° の絶景と、サプライズのブロックン現象が出迎えてくれました。取付から 3 時間 15 分。本日 3 番目の登頂でした。予定よりかなり早め。でも、早いことは良いとは限りません。マッターホルン登山の核心は下りなので、登りのオーバーペースによる体力の使いすぎは危険です。



肩にて一服。上部岩稜が見える。



山頂からの絶景。夢にまで見た景色！

下りはゆっくり！との思いを秘め(ガイドにはもちろん内緒)、7:45 下山開始です。今度は私が先頭なのでスピードをコントロールできるはず！頂上直下の雪田は雪が腐り始め、ピッケルがないので恐怖でした。ガイドは後ろから煽ってきます。一度仕方なく言われるままに少しペースを早くしたら、足が取られかけたので、その後煽りは無視。この雪田、滑れば北壁に吸い込まれますので、フットワークとバランスに自信のある方以外は、ピッケルを持っていくことを勧めます。

岩稜帯に入ってから、支点からローアードアウンで下ろしてもらいます。このローアードアウン、懸垂下降と違ってスピードのコントロールを自分でできないので、尻を岩角に打ちつけそうで結構怖いです。支点の取り合いは激しく、下から登山者が次々と登ってくる中降りないといけないので混沌としており、登山者の頭にアイゼンキックを食らわせそうになりました。ショルダーまでのフィックス帯は基本ローアードアウン。

ショルダーでアイゼンを脱ぐと、クライムダウン地獄が始まります。ゆっくり岩の側を向いて降り

たらガイドに「遅い！前向いて降りろ！」と怒られました。後ろから、右、左、と指示を受けます。大体自分が予想した方向と同じで安心しましたが、ソルベイ小屋から下は一部かなりわかりにくいところがありました。ガイドレスでガスったら怖い。他のガイドパーティがローアードウンしている所も、容赦なく「降りろ」の指示。普通にローアードウンしてよ・・・

ソルベイ小屋からの下りはかなり長く、疲れてきましたが、スリップ＝アウトの岩稜が続くので、「集中、集中」とか呟きながら一歩一歩確実に降ります。ヒヤっとすることはありませんでした。簡単な部分をゆっくり降りていたら、しびれを切らしたガイドが横からスイスイ追い抜き「こうやって行けば早く降りれるぜっ！やってみろ！！」と煽ってきました。河「いや、まじでむりっす・・・」ガイド「いや、大丈夫だ！」勘弁してくださいってば。

いい加減膝が痛くなったところで、最後のフィックスロープを下り、取付に戻ってきました。ガイドと再びがっちり握手です。山頂では下りの心配があり手放しに喜べる状況にはなかったのも、やっと心の底から「よっしゃ一登ったぜ！」と思えました。時間は 10:40。まだ午前中！下りも 2:55 と登りに近い時間がかかりました。ゆっくり降りる作戦は多少成功したようですが、膝はガクガク。筋肉痛というより筋肉ぶっ壊れている感じです。河「へっぽこですんませんでした」ガイド「お前はグッドクライマーだ。タイムを見てみる。往復たった 6 時間ちょっとだぞ！（通常 8～9 時間）」と、まさかのベタ褒め。厳しい現地ガイドに褒められるととても嬉しいです。ガイドも無事客を登頂させ、さっさと帰れるのでご機嫌。でも、時間に余裕あったら、もっとゆっくり登りたかったなあ。山頂は既に雲に覆われており、この後夕方に天気は崩れ、途中撤退したパーティも結構いたのでそんな悠長なことは言ってもらえず、ガイドの判断は正しかったとは思いますが、せめてヘルンリ小屋見えてからくらい、ゆっくり行こうよ。

ヘルンリ小屋で登頂証明書とバッジを受け取り、先に下るガイドさんと別れ、まったりと下山しました。アタック中は前○腺協会会員の私にしては珍しくトイレ回数ゼロ。飲んだのは薄めたジュース 500ml、食べ物は日本から持っていったゼリー飲料(朝バナナ)1 本と 300kcal くらいしかエネルギーを摂らなかったのもとても腹が減り、下山後はマクドナルドに一直線。しかし疲労で意外と食べ物が喉を通らず。その後 T さんと合流し、反省会という名目で久々にしこたま飲みました。あ～ワインが旨い、ビールが旨い、ソーセージが旨い！ここは樂園だ！！

8 月 14 日

アタック予備日でしたが、朝からシトシト雨でツェルマットの町からマッターホルンが見えません。ヴィアフェラータかフリークライミングに行こうかと思いましたが岩は濡れていて筋肉痛も酷いので行く気が起きず、観光。博物館に展示されていた、マッターホルン初登頂後の下山時に切れたザイルは、予想以上に細くてびっくり。午後の電車で一足早くツェルマットからチューリッヒに移動。一週間付き合ってくれた T さんと、また一緒に登ることを約束し、別れました。

8 月 15 日

チューリッヒ→フランクフルト→飛行機泊

8 月 16 日

朝成田着。昼過ぎに秋田に戻りました。



取付に到着！

## ○振り返って

悪かった腰は帳尻を合わせるように回復し、弱った体でも天候に恵まれ無事登頂することができました。天候はアタックした 8/13 が今シーズンのラストチャンスで、ラッキーでした。しかし、反省点も色々あります。海外遠征に向けて体調コントロールできなかった時点でダメですし、山頂直下の雪田はピッケルないばかりに怖い思いをしたり、ガイドのペースに飲まれてしまったり・・・次遠征する機会があれば、この反省点を活かしたいです。また、クライマーたるもの、次はリードして登りたいです。

私がクライミングを始めたきっかけは「マッターホルンに登りたかった」からなので、今回の登頂で一区切りがつかしました。でも、改めて振り返ってみれば、「マッターホルンの登頂」以上に、登頂までの仲間との日々が、どれだけ素晴らしく、かけがえのないものだったことか。いい歳して大好きな漫画のセリフを引用すると『オレはいつも現在オレが必要としているものを追ってる。実はその先にある「本当に欲しいもの」なんてどうでもいいくらいにな。ネットで知り合って、オフ会で意気投合したそいつらは皆オレより年上で、普通の会社員や院生やフリーターだったりした。オレの素性と計画を打ち明けたら連中は、法人設立に関わる雑事を進んでこなし、なけなしの生活費から寄付までくれた。念願かなって、王墓の中に足を踏み入れたとき、オレが一番嬉しかったのは、ずっと願ってた王墓の「真実」を目の当たりにした事じゃなく、一緒に中へ入った連中と顔を見合わせて握手した瞬間だった。そいつらは今も無償で役員をしながら、オレに生きた情報をくれる。この連中と比べたら、王墓の「真実」はただのおまけさ。大切なものは、欲しいものより先に来た。道草を楽しめ。大いにな。ほしいものより大切なものが、きっとそっちにころがってる。』(HUNTER×HUNTER 32巻(集英社))『大切なものは、欲しいものより先に来た。』素晴らしい仲間にも恵まれ、ほんとうにその通りだなと感じます。私の登山・岩登りに関わってくださった仲間へ深く感謝です。

でもやっぱり、次の目標も欲しいところです。ということで、当面の目標はハーブドーム **Regular route**(遠いなあ～)、夢はアイガー北壁とエルキャピタン **Nose**(遙か彼方だ～)。事故らない程度にぼちぼち頑張っていこうと思います。仕事で東京に飛ばされてしまいましたが、これからもどうぞ山などでお付き合いください。よろしくお願ひします。



左から T 先輩、河合



# 新入会員です！

★★★ 昨年の納山祭以降に入会した方々です ★★★

## 「 “ 山登り ” というもの 」

盛岡市南大通 No.454 小原 耕

私は、元来持続的な動きを必要とするスポーツは苦手でした。マラソン大会、持久走大会などは、本当に大嫌いでした。逆に短距離の方や球技の方に魅力を感じていました。

40代の歳は、仕事上でも中核社員で転勤も重なり、自身の健康にも不安を感じるようになっていました。年に何度も”ぎっくり腰”になり、怪我で骨折したり、人生の試練の年でした。そんな中で、「山に行こう」と誘われ、初めての登山を経験しました。

初めから乗り気ではなかった訳ですが、登るうちに平地ではない路面の変化や景色の変化に、今まで味わったことのない感覚を覚えました。行き交う人々は、明らかに自分よりお年を召している方々。そして、



その皆さんの顔が『朗らかで、清々しさに溢れているようでした』びっくり、下界のほうで見ていた同じ年代の方々と思えないくらいでした。その山は、チングルマの群落、コマクサが咲き乱れ、ミヤマキンバイをあちこちに見ることができました。そして、ずっと下のほうに、きらきらと光る湖面をたたえた田沢湖が見えました。空はどこまでも青く広がっていました。そう『秋田駒ヶ岳』です。

その1回の山登り経験が、いままでの自身の苦労をあざ笑うような体験をもたらしてくれました。いい時ばかりではない…、山もあれば谷もある、あんなに大変と思っていたことも「小さいなあ」と思えだし、本当に全部洗われてしまった感じでした。

たぶん、動けるうちは山に入ることは止めそうにないでしょう。できれば、八十になっても、孫と登ってみたいと思っています。

## 「 憧れの田中陽希さん 」

盛岡市北天昌寺 No.455 大倉 博

会社を定年になり、暇になった。何かやろうと考えた時、体を動かすことが好きだったので走ることにした。

雫石川の堤防が近くにあり、そこを走り始めて2年位たった。初めは長く走れなかったが、ほとんど毎日続けているうちに10km走れるようになり、走らないと調子が悪く生活の一部になった。今ではランニングウォッチを買い、月300kmを走ることを目標とし400kmを走ることもある。タイムも10kmを最高で50分台で走れるようになった。しかし最近タイムは縮まらず、マンネリ化している。

数日前、田中陽希さんのグレートトラバースのテレビを見た。彼は全行程を歩いて日本の200名山を登山している超人で、私の憧れの人である。インターネットに、7月13日に姫神山に登るとあったので行って見たら前日登ったと聞いた。今日は雫石方面に歩いて行ったとの事であった。そこで車で後を追って、姥屋敷で追いつき快く写真を撮らせていただいた。背の高い人であった。

後日陽希さんの真似をして鞍掛山に家から歩いて行くことにした。天気の良い日に前に歩いて行った14km先の小岩井農場を目指した。多少の汗は掻いたが1kmを10分ペース快調に歩いた。そこから鞍掛山の登山口まで5km位と思ったが7kmあり、家から3時間30分かかった。途中道路上に栗やクルミが落ちている個所があった。お昼に近い時間になり、歩いて来た疲れを取りながら、おにぎりを食べた。お腹がすいてとても美味しかった。遠くで牛の姿が見えた。鞍掛山に50分で登り、40分で下山した。岩手山、雫石の町が近くに良く見えた。しかし陽希さんのように普通の人(登り60分下り45分)の半分の時間とは到底およばなかった。帰りは下りが続き楽なはずだが、リュックの重さで腰が重くなり家が遠く感じられた。時間は4時間近く掛かった。

これからも、目標を持って山登りやランニングを続けて行こうと思う。



## 「 盛岡山友会に入会して 」

盛岡市北飯岡 No.456 中松 明久

山を好きになって20年以上経った。仕事が生活の中心で山に行く回数はメッキリ減った。今年1月に盛岡長期出張が決まり、山スキーを新調して盛岡山友会に入会した。知らない山域でも山スキーに連れて行ってもらえるかなというちょっとズルい考えで。大人数の中は慣れていなかったが、毎回楽しい山行だった。

春になり出張も延びたので、山スキー以外の山行にも参加した。県境、小屋泊まり、クライミングトレーニング、清掃登山、沢登り、ボッカ訓練などなど。その中で、クライマーの皆さんや世界一を目指す橋本さんなど大いに刺激を受けた。何か目標を持って山に向かい、トレーニングもしたいと思った。

達成まであと80キロとなった県境踏破は盛岡山友会にとって悲願だと思う。延べ何人が参加したのだろう？コラボで歩くのも山友会ならでは。僕が参加したのは僅かな距離だが今冬は山スキーでも参加したい。

来春は札幌にいると思うので、北海道にお越しの際は是非！



## 「 岩手山は日本一の山！ 」

八戸市 No.457 圓子 徹哉

私が、岩手山を初めて意識したのは高校3年生の今頃、大学の推薦試験を受けるために滝沢に来た時の事だ。大学のキャンパスから見る、雪を被った岩手山は、たちまち私の心を魅了した。当初、本命の学校は他にあったものの、試験を通過するや親に頼んで岩手の学校に入学させてもらった。

大学では山に関わるサークルに所属し、岩手山には年に6~7回は登った。校内の学生をガイドする企画のために、下見、食料の荷揚げ、当日のガイドと3日間で山頂まで3往復した(させられた?)事、



残雪期の4月にホワイトアウトして焦った事等。山仲間との思い出は、いつになっても私の大切な宝物である。今年で50回目の登山となった。私がこの山が好きなのは、四季折々、コース毎にすてきな表情を見せるだけではなく、その山の姿に、かつての記憶を重ねているからかも知れない。

## 「 新入会員雑記 」

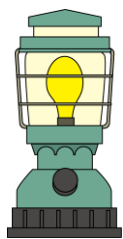
紫波郡矢巾町 No.458 舟越 茂雄

山登りを始めたのは、今から7年前になります。運動も全くせずに過ごしていたのですが、何の気なしに、「月に1回くらい山にでも登ってみようか。」と思ったことが始まりです。

初めての山は、国見温泉からの秋田駒ヶ岳でした。その時は、普段、全く運動をしていなかったのに、とにかく足が動かず、天気が悪いことを言い訳に「馬場の小路」の分岐から帰ってきたのですが、何故か一人で登っていることが楽しくて、その後は独学で勉強し、県内のあちこちの山を登っていました。

山登りを始めてから3年ほど経った平成24年3月に突然、名古屋への転勤を命ぜられました。これで山登りは暫くお休みかなと思っていたのですが、パソコンで名古屋には「名古屋山岳同志会」なるものがあることを知りました。どんな活動をしているのか見学に行ったところ、仙台からの単身赴任の方に強く入会を勧められ、その日のうちに入会しました。名古屋山岳同志会では、山行計画の立て方、歩き方、装備、レスキューなど山登りのいろはを一から教えていただきました。

山行で特に印象に残っているのは、入会后間もなく連れて行ってもらった御嶽山です。御嶽山は、名古屋の宿舎からも天気が良ければ見える山ですが、とにかく初めてづくしで、一人で登っているのは経験



できなかつた、「テント泊」、「歩荷訓練」、「夜間歩行」、「3,000m峰」など、初めてづくしの山行で、楽しくて、楽しくて忘れられない山行です。その後も「御嶽山」には2度ほど登りましたが、平成26年9月の突然の噴火により多くの登山者が犠牲になり、今では登山ができない状況です。まだ、5名の方の行方が分からないままとなっていますが、1日も早く発見され、家に帰れることを祈っています。そして、又、御嶽山へ登ることができるようになったら、思い出の山に登りに行きたいと思っています。

## 「 山行新米雑感 」

盛岡市上田 No.459 三澤 信裕

北山、高松の池周辺を毎朝散歩し高松の東屋展望台で休息するのが私の日課。ここから南昌山が眺望できるので休息の度、何気なく眺めていた。

こんな日々を過ごしていたが、三年前の初夏のある日、この山に登ってみたいと言う強い衝動に駆られホームセンターでザックを買い靴は冬用のブーツで一人山行に挑み何とか頂上に辿り着く。その後、早池峰山等に登る。翌年、盛岡山友会の初級者講習会に参加し鞍掛山、秋田駒ヶ岳、中学生以来の姫神山を体験。



その後一年遅れで今年入会し、雨で中止もあったがグループでまた一人で数回山行達成した。初めての山は一人よりはグループ山行の方が道に迷う事もなく安心。またベテラン会員から山についてや高山

植物の話を書く事ができ少しは山通になったか。岩手山を初めとする山の頂上からの眺望は格別。山の恵みのキノコ、姫筍、栗も期待し今後も山行続けたい。会員NO、459（シゴク）なので頑張りたい。

## 「 ふるさと 」

盛岡市津志田 No.460 杣澤 瑠実子

私の故郷は八幡平で、子供の頃から不便で何もない田舎に生まれた事を嘆いていた。夏は涼しいが、冬は寒く沢山雪が降る。特に山からの吹き下ろしで地吹雪のメッカだ、頬を真っ赤にして学校へ通った記憶がある。オシャレな都会に生まれたかったと、ずっとそう思っていた。

そんな故郷に愛着を持つ様になったのはごく最近の事である。山歩きを始めて、こんな身近に素晴らしく豊かな自然がある事に気付かされ感動した。それと同時に自分の故郷なのに何も知らない事をとて恥ずかしく思った。今では、八幡平パークボランティアとなり、まだまだ勉強中だが、地元の子供達に八幡平を案内したり、自然を守るための活動も行っている。

中部山岳地域をはじめ全国には沢山の人を魅了する山々、自然がある。それに比べてしまえば大した事ないかもしれないが、静かでこじんまりした身近な感じが私には丁度良い。もうすぐ冬がやってくる、雪化粧が一段と美しい八幡平。いつか、その隅々まで歩いて行きたい。



## 「 461 中村です 」

二戸郡一戸町 No.461 中村 篤

夏が終わったな～・・・

などと思っていたら、もう年末ですか！

前は1年が過ぎ去るのが早く感じるのを焦っていたようにも記憶していますが最近では嫌いな冬が気づいたら過ぎ去ってくれているので、ありがたいようにも感じております。

自分は基本、冬のあいだは布団の中でビバーク訓練をしてやり過ごすのですがせっかく山友会に入ったので、いろいろと冬山にも連れて行ってもらおう・・・

と思っていたのですが、悲しい事情により冬の間しばらく車に乗れなくなりそうなのでやはり、今年もしばらく冬眠することになりそうです。



あたたかくなったらまた会いましょう（笑）



## 「 山梨県から岩手県にやって来て 」

盛岡市高松 No.462 金子 紘野<sup>ひろの</sup>

山梨県から岩手県にやって来て、もうすぐ7か月。今までの人生で一番大きな変化がある日々を過ごしています。

住み慣れた場所や親から離れたことで、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でないことに気づきました。家に帰ればご飯があつたり、毎日湯船につかれたり、兄弟とテレビを見て笑ったり、自分や兄弟の幼いころのことを笑いながら話してくれる人が傍にいたりすること。生まれてから今までずっとずっと見守られてきたということ、頭では分かっていたのですが、心では理解していませんでした。それに気付けたことは、私にとって大きな収穫です。



そして、今でも私はたくさんのひとに支えられています。高校時代の友人や先生、大学で出会った友人や先輩、先生、山友会の皆さん。たくさんの優しさを感じながら、日々生活しています。本当にありがとうございます。私は、みなさんのように優しく、いくつになっても山を愛せる人になりたいです。これからもよろしくお願いします。

## 「 盛岡山友会入会にあたってのご挨拶 」

滝沢市妻の神 No.463 菅原 富士夫

平成 27 年 6 月に入会させていただきました菅原でございます。私の入会のきっかけは、趣味のテレマークスキーとオーディオで知り合った 2 人の先輩方の紹介と後押しがあったからでした。例会に何度か参加してみて、とてもまとまりがあり、気さくな方々がお集まりになっている会だな、と感じました。

私の登山歴の始まりは 26 歳の三ツ石山からです。仕事柄、直前まで休めるかどうか確定しない事が多いので、時間的余裕や同行の方に迷惑を掛けないう、手近な山を選んで一人で登っていましたが、そんな中で八幡平が最高のフィールドだと感じ、以来、茶臼岳、八幡平、源太ヶ岳、三ツ石山を中心に登っています。

4 年前よりテレマークスキーを始め、冬は下倉のゲレンデ、春はステップソールで源太ヶ岳やモッコ岳周辺を登っており、その中でやはり仲間と登るのが一番楽しいな、と感じたのも入会のきっかけとなりました。また風景写真を撮るのも好きなので、リュックには必ず一眼レフを入れています。山登り後もスキーの後も、必ず温泉に



入り、自宅に戻ってからのビールが何よりの楽しみなので、自ずと温泉がある山ばかり登っています。まだ会の行事には参加出来てはいませんが、冬の時期は比較的休みが取りやすいので、冬山から参加出来たらと考えています。

仕事は主に住宅や店舗の設計をしております。家族は妻1人、子供（5歳）1人で、子育てにも時間が取られますが、そんな慌ただしい日常の束の間、山の基礎知識を身に付けながら充実して楽しい時間を諸先輩方と共有出来れば幸いと考えています。

個人的には秋に岩木山神社に行った際、鳥居越しに見えた岩木山が素晴らしかったので、来年是非登ってみたい、と考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 「 山との出会いとこれから 」

盛岡市西仙北 No.464 本間 絵悟

3年前の夏、それは大学2年の夏休み、僕は北海道の主峰「大雪山」で山に魅せられてしまいました。山の上にはこんなに美しい世界が広がっているのかと感動した瞬間は忘れられません。あの瞬間から僕はもっと色々な形の自然を見たいと思うようになり、自分の人生を変える瞬間になりました。



僕が登山を始めたきっかけは大学1年の時になんとなく登山サークルに入ったからでした。僕は登山以外にもダイビングや釣り、研究など色々なことに挑戦してきましたが、いつしか山だけが自分にとって最も特別な存在になり、大学3年にはワングル部に入りました。そして、社会人になってすぐに山岳会への入会を決めました。

多くの山岳会がありますが、縁があって盛岡山友会に入会。クライミングや沢登りに参加させて頂き、まだまだ知らない自然がたくさんあるなど実感、本当に感謝です。これからも色々なスタイルで山にアプローチしたいです。



## 「 登山と私 」

盛岡市西青山 No.465 三戸 紀子

仕事や家の事で慌ただしい毎日を送っていましたが常日頃より、自分の時間が欲しいと感じていました。そんな時思い浮かんだのが登山でした。健康的で生涯続けられ、尚且つ仕事によるストレス発散も出来、良い事づくしと。

しかし、始めるにも全くの初心者。たまたまインターネットで見つけた登山教室の案内。これが山友会との出会いでした。参加して思った事は、基本理念や方針に基づきされている事に驚きました。三ツ石登山における皆様のサポート力には脱帽しました。迷わず入会を決め、その後は二回登山しました。

登山後は、「今日も体力燃え尽きた。」と感じるのですが、「また山へ行きたい。今度は、〇〇山へ。」と思う自分が居ます。山には様々な魅力があると思いますが、これからも安全に登山できる様、知識や技術を習得していきたいです。宜しくお願い致します。



◇◇◇ あ と が き ◇◇◇

「山友 27 号」を無事発行することができました。

多くの会員の皆様からアンケートへの回答や写真、そして、エッセイなどの投稿をいただき、読み応えのある山友となりました。また、「新入会員です」のコーナーでは、新入会員の方全員からのひと言を掲載することができました。

どうもありがとうございました。広報部員一同感謝しています。

山行実績も数多くなり、一年間の専門部活動や志向別グループの活動の報告からも活発な会活動がうかがえます。

来年は会も創立 30 周年を迎えます。

会の活動とともに今後も充実した「あかげら」と「山友」の発行を行っていきたいと思います。

今後どうぞよろしく願いいたします。

広報部部长 久保加世子



## 山友 第 27 号

2015年12月2日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 広報部長 久保加世子

印刷／製本 (有)小松茂印刷所  
盛岡市大沢川原2-5-37